

平成23年度

## 校内研修の歩み

### 研 修 主 題

「基礎・基本を確実に身に付け、意欲的に学習する生徒の育成」

～言語活動を中心とした表現活動の工夫を通して～



## 群馬県利根郡片品村立片品中学校

〒378-0415 群馬県利根郡片品村鎌田4480番地  
TEL 0278(58)2019 FAX 0278(58)2079

# 目 次

	頁
はじめに -----	1
<b>I 教育概要</b> -----	2
1 学校教育目標と経営方針	
2 本年度の努力点と達成のための重点施策	
3 生徒数	
4 職員組織	
<b>II 研修の概要</b> -----	3
1 研修主題	
2 研修主題設定の理由	
3 研修のねらい	
4 研修内容・方法	
5 研修組織	
6 研修の経過	
<b>III 基本的な考え方</b> -----	6
1 「基礎・基本」とは	
2 「意欲的に学習する生徒」とは	
3 「言語活動を中心とした表現活動」とは	
4 「話し合いの進め方」マニュアル	
<b>IV 実践内容</b> -----	7
1 調査分析部会	
2 授業分析部会	
<b>V 授業実践</b>	
実践例 1 2年国語 「古典に親しむ」 -----	9
実践例 2 3年社会 「私たちの生活と経済」 -----	12
実践例 3 2年数学 「連立方程式」 -----	15
実践例 4 3年数学 「図形の相似」 -----	18
実践例 5 1年理科 「力の世界」 -----	21
実践例 6 2年理科 「電流のはたらき」 -----	23
実践例 7 1年英語 「クリスマスがやってきた」 現在進行形 -----	27
実践例 8 2年英語 「When」 接続詞 -----	29
実践例 9 3年英語 「Writing Plus1」 意見の主張 -----	31
実践例 10 2年音楽 「日本の音楽に親しもう」 歌舞伎(勸進帳) -----	33
実践例 11 2年保健体育 「跳び箱運動」 -----	36
実践例 12 1年技術家庭科 「電気を安全に使う方法を調べよう」 -----	38
<b>VI 研修のまとめと今後の課題</b> -----	41
1 研修のまとめ	
2 今後の課題	
あとがき -----	42

## はじめに

学校長 平賀 信夫

平成24年度からの新教育課程の全面実施を控え、今年度は移行期間の最終年度でした。次年度からは、年間1015時間の授業時間が標準の授業時数となり、最低でも週あたり29時間の授業が必要となります。学校行事やカット時数などを考慮すると、週29時間を超え、週30時間に迫る授業時間を確保しなければならない状況となり、これまで以上に、効果的で効率的な授業実施が求められます。

今年度は、「基礎・基本を確実に身に付け、意欲的に学習する生徒の育成 ～言語活動を中心とした表現活動の工夫を通して～」をテーマとして校内研修を推進してきました。各教科においては、本時のねらいを達成するために本時の表現活動が効果的であったかどうかという視点に立って授業研究を行ってきました。校内研修の目的は、基礎・基本を確実に生徒に身に付けさせることのできる力を教師が身に付け、磨き伸ばすことにあります。

言語活動が組み込まれてはいたが基礎・基本が身に付いていない授業は何の意味ありません。板を切るときに金槌では切ることができません。切るためにはノコギリが必要です。本時のねらいを達成するために、言語活動が本当に必要な場面で取り入れればよいと考えます。目的は何か、そのための手段は何か、目的と手段とを取り違えていないか。いつも考える必要があります。「表現活動は、本時のねらいにせまる上で効果的であったかどうか」を視点として掲げ、一人一授業を実施できたことは道筋の通った校内研修であったと感じます。

さて、今年度は、研修の一環として、9月5日には、利根教育事務所より中島 潔 指導主事をお招きし、「教科の特性をふまえた言語活動と授業づくりの基本的な考え方」について、講義や資料提供などをしていただきました。

また、11月8日には、本校において、連携型中高一貫教育公開発表会が開催され、理科、音楽、体育、数学、英語の授業を公開しました。この発表会は「奥多野地域」「孺恋地域」「尾瀬地域」で実施している連携型中高一貫教育を年ごとに順次、公開する機会となっており、9回目の今回をもって終了となりました。

授業改善に向けた取り組みは、一人一人の教師に課せられた使命です。校内研修を含め、連携型中高一貫教育公開発表会や片品村教育研究会における研究や研修など、多様な研修機会を活用し、一人一人の教師が他から学び、自己の指導方法を振り返ることができたことは有意義なことです。

最後になりましたが、校内研修推進の中心としての役割を果たしていただいた研修主任の先生、各部会長の先生、指導主事訪問、連携型中高一貫教育公開発表会、一人一授業などにおいて、授業公開をしていただきました先生方、また、大変お忙しいなか、熱心なご指導を賜りました利根教育事務所、片品村教育委員会など、関係の皆様方に厚く御礼を申し上げます。今年度の「研修の歩み」発行にあたっての言葉といたします。

# I 教育概要

## 1 学校教育目標と経営方針

- (1) 基本目標  
心身ともに健康で人間的愛情に満ち、自ら考え、正しく判断し、たくましい実践力のある生徒の育成
- (2) 具体目標  
「確かな学力、豊かな心、強い体力」を求め、気づき、考え、実行できる生徒の育成
- (3) 経営方針
  - ① 師弟同行・率先垂範・凡事徹底の精神を基に、職員が組織的に協働することにより、教育目標の達成に努める。
  - ② 生徒同士や生徒と教師の人間関係、信頼関係の確立に努める。
  - ③ 生徒に確かな学力と豊かな心を育む。
  - ④ 家庭や地域との連携を深め、それぞれの教育力を生かした教育活動の充実を図る。

## 2 本年度の努力点と達成のための重点施策

- (1) 学年・学級経営、生徒指導の充実（社会性、自主性・自律心の向上）
  - ・信頼関係を基盤とした、節度と温かさ・生徒一人一人に心の居場所と出番のある学年・学級づくり
  - ・諸活動におけるふれあいを通じた多面的な生徒理解と共通理解に基づく積極的な生徒指導の推進
  - ・チャンス相談の活用及びスクールカウンセラーや関係機関との連携の充実
- (2) 授業の改善と充実（基礎学力の向上、豊かな心の育成）
  - ・授業のねらいと手立て・評価項目を明確にした授業、楽しく学び・身に付く授業の実践
  - ・指導の工夫・改善による基礎的・基本的知識・技能の定着、思考力・判断力・表現力の育成、学習意欲の向上
  - ・校内研修や自己研鑽を通じた教員の指導力の向上
  - ・道徳の時間の指導の充実と体験的な活動等を通じた、豊かな心の育成
- (3) 教育環境の充実（潤いのある物心両面の環境整備）
  - ・生徒の人権・人格を尊重する言語環境の徹底（認め、励まし、意欲を高める言葉かけ）
  - ・生徒と教師が一体となった美化活動や奉仕活動の推進
  - ・家庭・地域との連携・交流による落ち着きのある環境づくり
- (4) 学社連携・融合の推進（開かれた学校づくりと中高一貫教育の充実）
  - ・積極的な情報発信や家庭、地域との連携・協力による信頼関係・協力態勢の構築
  - ・尾瀬高校との連携・協力の充実による尾瀬地域中高一貫教育の効果的推進
- (5) 安全・危機管理の徹底（安心・安全な学校生活の保障）
  - ・交通事故や生活事故の防止（日常的・計画的な安全指導の継続、安全点検の徹底と迅速な処置）
  - ・いじめはしない、させない、許さないという意識と態度の徹底（人権意識の高揚）
  - ・生徒に危険予測・回避能力をつけさせるための安全教育の推進

## 3 生徒数

学 年	1 年		2 年			3 年		合 計	
	1 組	2 組	1 組	2 組	3 組	1 組	2 組		
生 徒 数	男	1 2	1 3	1 2	1 1	2	1 5	1 4	7 9
	女	1 3	1 2	1 5	1 5	0	1 3	1 4	8 2
	小 計	2 5	2 5	2 7	2 6	2	2 8	2 8	
計	5 0		5 5			5 6		1 6 1	

## 4 職員組織

職名	氏 名	担 当	職名	氏 名	担 当	職名	氏 名	担 当
校長	平賀 信夫	経営管理	教諭	吉野 繁夫	2年主任	養護	真船由美子	保 健
教頭	小室 昌頭	企画運営	教諭	高山 誠	2年1組	非常勤	金子 友美	美 術 科
幹事	林 一彦	学校事務	教諭	安藤 千雨	2年2組	非常勤	青木 真美	家 庭 科
教諭	尾崎 和子	教務主任	教諭	野上 和栄	3組担任	非常勤	吉野 智彰	体 育 科
教諭	須田 秀昭	1年主任	教諭	石井 優	2年副担	S C	戸塚 茂則	教育相談
教諭	高橋 宏輔	1年1組	教諭	馬場 英行	3年主任	ALT	BrianThomas	英語指導助手
教諭	瀧澤 裕志	1年2組	教諭	會田 華恵	3年1組	公仕	須藤 松子	用 務
前休補	小池 史敏	1年副担	教諭	吉田 翔一	3年2組	公仕	千明 太郎	学校施設

## Ⅱ 研修の概要

### 1 研修主題

**研修主題** 「基礎・基本を確実に身に付け、意欲的に学習する生徒の育成」

**副主題** ～言語活動を中心とした表現活動の工夫を通して～

### 2 研修主題設定の理由

本校では、昨年度まで研修主題を「自己の生き方を考え、主体的に学ぶ生徒の育成」、副主題を「～豊かな心を育み、確かな学力が身に付く授業展開の工夫を通して～」とする継続研修に取り組んできた。今年度の校内研修は、来年度の新学習指導要領による新教育課程完全実施に向けて、研修主題を「基礎・基本を確実に身に付け、意欲的に学習する生徒の育成」、副主題を「～言語活動を中心とした表現活動の工夫を通して～」として校内研修を進めることとした。

本校の生徒は、とても純朴で、明るく落ち着いた学校生活を送っている。毎日の清掃活動では、少ない人数で、広い掃除分担区を一生懸命行い、その取組はとても真面目である。与えられた課題は誠意をもって成し遂げられる生徒達である。本校の生徒の会話においては、言葉足らずのために担任の先生との会話がスムーズになされていなかったり、授業中においても自分の考えや思いを発表する際、基礎・基本となる教科の用語を的確に覚えていないことと、語彙力不足により分かりやすく自分の考えや思いをうまく表現できない場面がしばしば見受けられる。

OECDのPISA調査や文部科学省の「全国学力・学習状況調査」の結果において、書かれている内容を基に、自分の考えを書いたり説明したりする表現力の弱さが課題として挙げられている。この結果を受け、各教師はこの課題の克服のために授業の改善・充実を努めているが、すべて個人に任せている傾向にある。そこで、言語活動に視点を置いた指導法の改善・充実をめざす校内研修に取り組むことは、各教師の指導力の向上につながるものである。

また、「自らの意見を述べる」には、基礎的・基本的なことがおさえられていないと、明確な考えや意見を表明することができないと考える。さらに、来年度から実施される新学習指導要領では、国語をはじめとする言語に関する能力の重視を打ち出し、すべての教科において言語の能力を育成することを示している。言語に関する能力を育成する中核的教科の国語においては、各領域のそれぞれに記録、要約、説明、論述といった言語活動例が示され、国語以外の教科では、観察、調査、実験等の結果をまとめ発表する活動等が、総合的な学習の時間等においては、言葉や図にまとめ発表する活動や話し合い活動といった言語活動が、それぞれの教科・領域に応じて充実を図るよう示されている。来年度の新学習指導要領全面実施に向け、年間指導計画の改善及び充実が必要であり、言語活動の充実に向けた校内体制を整備していくことが早急の課題であると考えられる。

以上のことより、言語活動を中心とした表現活動を意図的に取り入れた授業づくりをすることは、生徒に基礎・基本を確実に身に付けさせ、生徒自らが学ぼうとする学習意欲を向上させる上でも、教師の指導力の向上においても有効な研修であると考えられる。

### 3 研修のねらい

各教科に応じて、効果的に自分の考えや思いを表現する言語活動を中心とした表現活動を工夫をすることにより、基礎・基本を確実に身に付け、意欲的に学習する生徒を育成する。

#### 4 研修内容・方法

一人一授業の研究授業を行い、参観の方法や授業研究会の持ち方を工夫しながら研修が深まるようにしていくことを基本として、以下の内容について取り組み、研修に深まりがもてるようにする。

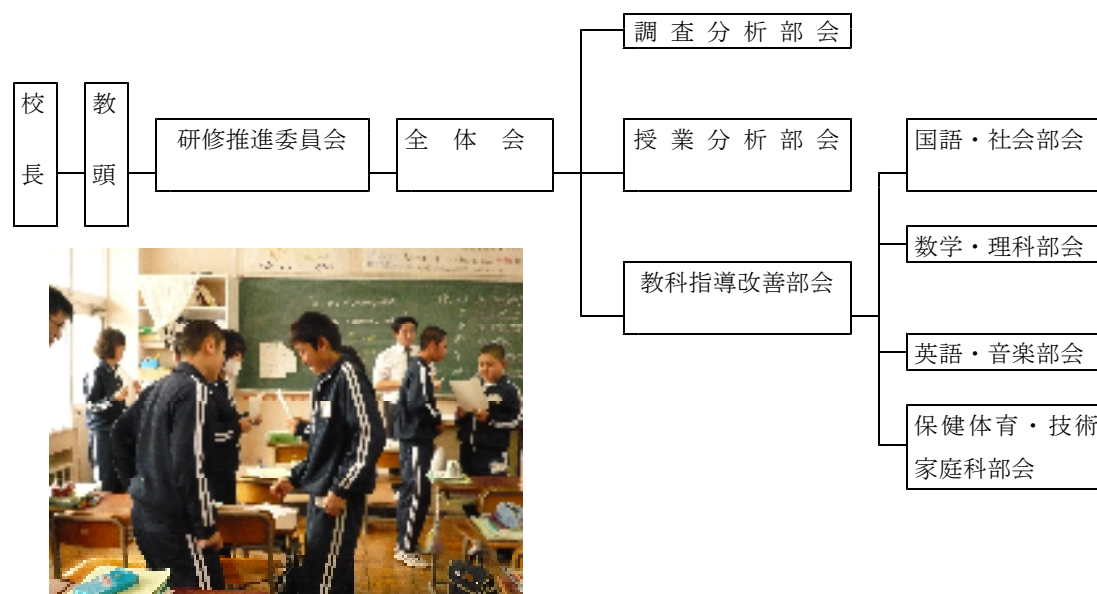
- 研修主題、副主題がもつ意味の共通理解を図るために、以下の用語の捉え方を話し合う。
  - ①「基礎・基本」 ②「意欲的に学習する生徒」 ③「自分の考えや思いを表現する表現活動」
- 基礎・基本を確実に身に付ける，言語活動を中心とした表現活動の指導方法の工夫に努める。
- 意欲的に学習に取り組む生徒を育成する指導法の工夫・改善に努める。
- 4月と11月に学習意欲に関するアンケートを実施し，生徒の変容をとらえる。
- 次年度，新学習指導要領による教育課程完全実施であり，年間指導計画を作成する。

#### 5 研修組織

☆：部会長

組 織	構 成 員	研修推進上の役割や主な研修内容	
研修推進委員会	学校長，教頭，教務主任，研修主任 調査分析部会長，授業分析部会長 教科指導改善部会長	○研修計画の立案 ○全体会に提案する内容の協議 ○研修の課題の焦点化等 ○授業実施計画の作成	
全体会	全職員	○研修内容の確認	
調査分析部会	☆野上，須田，高橋，石井，馬場， 會田	○学習意欲に関するアンケート作成と集計・分析	
授業分析部会	☆高山，小池，瀧澤，安藤，尾崎， 吉田	○授業研究会の資料づくりと司会進行 ○授業の写真撮影	
教科 改善指 導部 会	国語・社会部会	尾崎，高橋，馬場	○教科の授業改善の推進 ・全体会后にそれぞれの部会毎に分かれ， 各教科の実践報告の情報交換をする
	数学・理科部会	吉田，吉野，須田，野上	
	英語・音楽部会	☆會田，高山，小池，安藤	
	保健体育・技術 家庭科部会	石井，瀧澤，	

#### 【研修組織図】



## 6 研修の経過

指は、指導案検討 授は、研究授業・授業研究会 講は、講義

月日	内 容	研 修 の 視 点
4. 11	1 本年度の研修について ○研修主題・副主題の共通理解	・前年度の引き継ぎ事項の確認 ・指導案の形式
5. 2	2 校内研修計画書の共通理解 研修組織の確認 ○部会研修の研修計画の確認 ○指導主事訪問Aに向けて	・用語に関する共通理解 ・各部会の組織作りと研修内容の決定 ・提出用研修計画書の検討と最終確認 ・各部会の研修計画立案
5. 11	指導主事要請訪問A	・研修についての助言と研修の方向性を見直し
5. 23	3 A訪問の指導・助言の確認	・研修の方向性の修正
6. 9	授 2年数学「連立方程式」 吉野教諭	・研修内容に基づく授業実践と授業研究会
6. 15	授 3年社会「私たちの生活と経済」 馬場教諭	
6. 27	4 研修経過の確認 ○部会別研修	・研修意欲の喚起
7. 11	5 次学期への取り組み 部会の研修経過の確認 ○部会別研修	・1学期の個人の実践例をまとめ、次学期への取り組みに生かす
9. 5	6 ○部会研修	・部会別研修
9. 28	授 2年理解「電流のはたらき」 野上教諭(僻セン授業)	・研修内容に基づく授業実践と授業研究会
9. 29	授 1年理解「力の世界」 須田教諭	
10. 3	7 ○部会研修	・部会別研修
10. 24	8 指 B訪問の指導案1次検討 ○部会の研修経過の確認	・1回目B訪指導案検討・研修経過報告書の確認 ・部会別の質問事項の確認
10. 27	授 3年国語「夏草」奥の細道から 尾崎教諭	・研修内容に基づく授業実践と授業研究会
11. 1	授 2年英語 接続詞「When」 高山教諭	
11. 7	9 B訪問の指導案2次検討 ○部会別研修	・2回目B訪指導案検討 ・参観の視点の確認・部会別の質問事項の確認
11. 8	授 3年英語「意見の主張」 會田教諭 授 3年数学「図形の相似」 吉田教諭 授 2年数学「跳び箱運動」 石井教諭	・研修内容に基づく授業実践と授業研究会
11. 10	授 1年技術「電気を安全に使う方法を調べよう」 瀧澤教諭	
11. 18	指導主事要請訪問B 授 2年国語「古典に親しむ」 高橋教諭	・研究授業と授業検討会 ・指導主事指導助言 ・研修の修正と、まとめまでの最終確認
11. 28	10 B訪問の指導助言の確認と研修の修正 ○部会研修	・研修経過に沿った研修主題・副主題の見直し ・全体研修、部会研修の修正
12. 12	11 研修主題・副主題の修正 全体研修のまとめ ○紀要「校内研修の歩み」、「片品の教育」の原稿の確認 ○部会別研修	・実践してきた全体、部会研修のまとめ方についての確認 ・紀要や研究物の作成確認と分担
12. 20	授 1年英語「現在進行形」 小池教諭	
1. 23	12 研修の反省(アンケート実施) 紀要の個人原稿のまとめ	・個人の実践についての反省 ・個人原稿の作成と確認
1. 27	授 2年音楽 歌舞伎「勸進帳」 安藤教諭	・研修内容に基づく授業実践と授業研究会
2. 6	13 ○紀要原稿作成 次年度の研修について	・紀要原稿と次年度の研修について
2. 20	14 紀要原稿の検討 本年度のまとめ 来年度の研修の検討	・本年度の研修の成果と課題を確認 ・次年度の研修の方向性について検討
3. 19	15 引き継ぎ事項の確認 紀要の完成	・次年度へ向けての引き継ぎ事項の確認 ・本年度のまとめ

月日	区分	講師	○内容(上段)・成果(下段)
8. 29	人権教育にかかわる研修 (第4回全体会)	外部講師(県総合 教育センターい じめ対策係 國峯 智)	○いじめの理解と対応 ・いじめを見逃さない、いじめが起きにくい 学校づくりをするには、どんな点に気をつ けて指導すればよいか理解できた。
9. 5	6 講演会	外部講師 (利根教育事務所 指導主事 中島 潔)	○教科の特性をふまえた言語活動と授業づく りの基本的な考え方 ・新学習指導要領や各教科における言語活動 の位置づけと学習評価の改善及び言語活動 の在り方が分かり、言語活動の大切さにつ いて全職員で再確認することができた。

### Ⅲ 基本的な考え方

#### 1 「基礎・基本」とは

「基礎・基本」とは、生徒全員が習得しなければならないものである。学習指導要領は、扱う範囲を学年毎に決めており教科書として1つにまとめている。しかし、1時間1時間の学習のねらいや学習目標などを決めているものではなく、指導内容の精選は指導する教師に任せられている。そこで、本校が考える「基礎・基本」を以下のようにとらえるものとする。

学習指導要領に書かれていることを「基礎基本」ととらえるのではなく、1時間1時間の指導に直接当たる教師が、その時間で何を生徒に学びとって欲しいのか・何を身に付けて欲しいのかなど、1つまたは2つに絞ったねらい（価値）を「基礎・基本」ととらえるものとする。

#### 2 「意欲的に学習する生徒」とは

思考力や判断力、表現力、知識・技能などの個人差に関わりなく、全ての生徒がそれぞれに目的意識を持って、その授業に取り組んでいる状態であるととらえる。

#### 3 「言語活動を中心とした表現活動」とは

「表現活動」には、各教科等の特質に応じて、いろいろな表現活動が考えられる。本年度は、新しい研修に取り組む1年次であり、研修領域を絞って研修を深めたいと考えた。そこで、本校がとらえる「言語活動を中心とした表現活動」とは、ペア学習やグループ学習などにおける言葉による意見交換（言語活動）である、として研修を深めることとした。

#### 4 「話し合いの進め方」マニュアル

グループでの話し合いによる表現活動が、スムーズに、そしてより活発になるよう、グループでの「話し合いの進め方」マニュアルを下記のように決めた。マニュアルは、各教室に掲示し、いつでも見られるようにした。司会の言い方など、まったく同じ言葉で言う必要はなく、生徒同士言いやすい言葉に言い換えたり、教科に合わせて使いやすいように変更したりして活用することとした。

##### 「話し合いの進め方」（グループ用）

- ①今から、「グループでの話し合い」をはじめます。
- ②自分から考えを発表（説明）してください。まず、〇〇さんからお願いします。
- ③ありがとうございます。今の考えを聞いて、質問や意見がある人はいますか。
- ④次に△△さん、発表（説明）をお願いします。  
《全員の発表が終わったら》
- ⑤グループの考えを決めます。どの考えがよいと思いますか。意見を出してください。
- ⑥グループの考えは、□□にします。◇◇さん、グループの発表準備をしておいてください。
- ⑦これで、「グループでの話し合い」を終わりにします。席を戻してください。  
《自分なりの考えを出したあと》  
指 示：「……の考えがよいと思います。その理由は……だからです。」  
付けたし：「……という考えですが、……にした方がよいと思います。その理由は……だからです。」  
迷っている：「AとBの考えで迷っています。迷っているところは、……です。」  
質問する：「〇〇さんに質問します。  
①……についてもう少し詳しく教えてください。」  
②……は……ということですか。」  
③分からなかったので、もう一度教えてください。」



## IV 実践内容

### 1 調査分析部会

#### (1) 部会のねらい

本部会は、生徒の実態を把握するとともに変容をとらえ、研修テーマでもある「基礎・基本を確実に身に付け、意欲的に学習する生徒の育成」を目指し、アンケート調査を実施して授業改善や日常の指導に役立てる。

#### (2) 実践内容・実践方法

##### ア アンケート調査用紙の作成

生徒がどのような気持ちで学習しているのかの実態を把握するために、栃木県総合教育センター研究調査部で作成した「学習に関するアンケート」を参考に、欲求・動機レベル、学習行動レベル、認知・感動レベル、安心して学べる環境の4要素に着目し、この要素を取り入れた20項目の設問を作成した。設問は下表の通りである。

番号	質問項目	11	12
1	授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる	11	12
2	もっとうまい解き方や別の考え方がないか考える	12	13
3	よく分からないことは、分かるまで調べたい	13	14
4	いろいろなことを学ぶことは楽しい	14	15
5	興味のあることは調べずにはいられない	15	16
6	テストがあれば、自分で計画を立てて勉強する	16	17
7	自分が持っている能力を十分に発揮したい	17	18
8	授業では友達と協力して学ぶことも多い	18	19
9	今までよりも難しい問題に取り組みことが多い	19	20
10	もっとかしくなりたい	20	

回答は、1：あてはまる 2：ややあてはまる 3：あまりあてはまらない 4：まったくあてはまらない

##### イ アンケート調査の実施

第1回を6月20日、第2回を12月12日に実施した。調査結果から重きを置く必要のある内容項目を選び、学習指導や日常の生活指導の改善を図る。

##### ウ アンケート結果の考察

第1回アンケートの結果、半数の生徒が3、4を回答した設問2番、9番、15番、17番、20番を重点項目と位置付けて指導を行うこととした。

第2回アンケートの結果、重点項目の改善が見られた。ほぼ全項目で向上したような変容がみられたが、学年の差も現れてしまった結果であった。設問17番、18番、19番などはまだ改善が見込まれるので継続した指導を行いたい。

#### (3) 成果と課題

##### 【成果】

アンケートをとることにより、生徒の実態を的確に把握することができ、指導を要する項目を重点的に指導しながら改善を図ることができた。

##### 【課題】

集計に手間取り指導の開始が遅れてしまった。なお改善が見込まれる調査項目もあるので、各項目ごとに継続した指導が必要である。

## 2 授業分析部会

### (1) 部会のねらい

#### ①学力分析

到達度テスト（NRT，CRT）を活用し，領域別および観点別に本校生徒の学力分析を行い，授業改善の具体的な方策を立て，実施する。

#### ②授業研究

授業研究を通して，より良い指導方法を考える。一人一授業の研究授業を行い，その都度授業研究会を開催する。時間の都合で授業研究会が開催できない時は，授業感想用紙を授業者に配布する。その成果を日々の授業実践に生かし，主題の達成，教科のねらいの達成を目指す。

### (2) 実践内容

#### ①学力分析

- ・ 4月にNRT（集団規準準拠検査）を実施した。
- ・ 1学期中に各教科部会で結果の分析を行い，授業改善プランを立て，実践した。
- ・ 1月にCRT（目標規準準拠検査）を実施した。
- ・ 2月にその結果をもとに，実践の評価をした。

#### ②授業実践

- ・ 一人一授業の研究授業・授業研究会を実施した。
- ・ 授業感想用紙を書いてもらい集約し，授業者に配布した。
- ・ 指導主事訪問では，指導案検討会や授業研究会を開き，授業改善に取り組んだ。
- ・ 実施日，教科，授業者は別掲の通り。

### (3) 成果と課題

#### ①学力分析

- ・ NRTの結果をもとに学力分析の作業に5月から取りかかり，授業改善の具体的な方策を立て，実践できた。
- ・ CRTの分析を年度内に行うことが，実践の評価と次年度以降の課題を明らかにする上で，役立ったと考える。

#### ②授業実践

全職員が1回以上の授業研究を行ったことで，職員の校内研修への関わりが深まり，すべての教科および教科以外の指導実践も含めて，主題の達成に近づくことができたと考えている。本年度の成果と課題は以下の通りである。

#### 【成果】

- ・ 建設的意見や授業に生かされる助言等が授業感想用紙に多く見られた。研究授業は刺激になり，様々な角度から意見交換が行え，日々の指導の充実が図られるという声が多く聞かれた。
- ・ 授業後の研究会も可能な限り行い，授業改善の具体的な方策を立て，実践できた。

#### 【課題】

- ・ 時期によっては，授業研究会が開催できないことがあった。開催できなかった場合には，感想を記入して授業者に渡せるようにする。
- ・ 授業を参観できなかった先生方にも，授業研究会で話し合われたことをまとめ，参考となるようにする。
- ・ 授業の様子を写真撮影する係がいなかったため，資料保存として部会の仕事とする。

## V 授業実践

### 実践例1 第2学年国語

- ① めざす生徒像
- ・自分の意見を主体的に伝え合うことができる生徒
- ② 具体的な授業展開の工夫
- ・「個別学習」⇔「(小)集団学習」という学習形態のプロセスを意識し、生徒一人一人の能力や理解度などに応じて、各自が問題解決したことを互いに伝え合う学習活動を通して、思考を広げたり、深めたりできるようにする。
  - ・すべての領域で、言語事項に関わることを繰り返し学習し、基礎・基本の確実な定着をめざす。

平成23年11月18日(金)第5校時  
 指導学級 第2学年2組  
 授業者教諭 高橋 宏輔

#### 授業の視点

与一の心情についてグループで話し合うことは、生徒自身の考えを明確にしたり、深めたりすることに有効であったか。

### 1 本時の学習

#### (1) ねらい

「与一」の心情について、自分の考えを明確にしたり、深めたりすることができる。


#### (2) 準備

生徒：教科書、ノート、前時までに配布した資料、資料集

指導者：教科書、ワークシート、発表用吹き出し、マジックペン

#### (3) 展開

	主な学習活動 (教科書の範囲P115L11～P116L14)	学習活動への支援・留意点 ★努力を要する生徒への支援 ☆十分満足できる生徒への支援	評価項目【観点】 (方法) ○おおむね満足 ☆十分満足
導 入	(1) 前時の内容を思い出す。 ・原文を音読する。 ・前時の内容を確認する。	3 ・はっきりとした声で音読させる。 ・与一の弓の腕前を平家も・源氏ともに感心していることを確認する。	
展 開	(2) 本時の場面のあらすじを確認し、与一の立場を理解する。 ・原文を音読(斉読)する。 ・現代語訳の範読を聞く(一人範読)。 ・マンガで内容を確認する。 ・マンガの吹き出しに「年五十ばかりなる男」「義経」の台	17 ・「おもしろさ」の意味をとらえ、年五十ばかりなる男が、与一の弓の腕を賞賛していることに気づかせる。 ・義経の「源氏の大将」という立場を考えさせる。	

<p>詞を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・台詞の根拠になる心情についてクラス全体で考える。</li> <li>・横山光輝が考えた台詞を確認する。</li> </ul> <p>(3) 与一の心情について考える。</p> <p>【個別】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・台詞を吹き出しに入れ、その理由(台詞の根拠となる心情)を書く。</li> </ul> <p>【グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・台詞とその理由を発表し意見交換をする。</li> <li>・根拠を話し合いながら、与一の心情を一番よく表している台詞を選ぶ(作る)。</li> <li>・代表者がフリップに台詞を入れ、その根拠となる心情について説明できるように発表の準備をする。</li> </ul> <p>○生徒が書く台詞の予想</p> <p>「源氏の代表として、あの男も確実に射落とさなければ。」 (使命)</p> <p>「戦の最中にバカな奴だ。」 (軽蔑)</p> <p>「射落とせば恩賞がもらえる。」 (利己)</p> <p>「義経様の命令だ。許せ。」 (謝罪)</p> <p>「賞賛してくれている男を射落とすなんて、俺は最低だ。」 (自己否定)</p> <p>「義経様はひどい人だ。」 (反感)</p>	20	<p>★【台詞が書けない生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・与一は、どんな立場?</li> <li>・与一は「あ、射たり」「情けなし」か、どちらの心情か?</li> </ul> <p>★【理由が書けない生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・義経へ対する気持ちは? 「軽蔑」「尊敬」</li> <li>・男に対する気持ちは? 「侮蔑」「申し訳ない」「殺されて当然」</li> <li>・自分自身への気持ちは? 「忠実ですばらしい」「反発できず情けない」「感じていない」</li> </ul> <p>☆司会者として、話し合いを進めたり、発表者として話し合いの内容をまとめたり説明させたりする。</p>	<p>○与一の心情について、<u>意見を言ったり友達の意見を聞いたりして、自分の考えを明確にすることが</u>できる。</p> <p>☆与一の心情について、<u>意見を根拠立てて説明したりお互いの意見を比較したりして、自分の考えを深めることが</u>できる。</p> <p>【読むこと】 (ワークシート)</p>
<p>まとめ</p> <p>(4) 与一の心情について自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代表者が台詞を発表し、台詞の理由(根拠となる心情)を説明する。</li> <li>・グループの発表を聞き、感想を書く。</li> <li>・朗読練習をする。</li> </ul>	10		

## 2 授業を終えて

- ・視覚的に内容を理解できるよう「マンガ」を教材として取り入れたことは効果があった。
- ・与一の心情を生徒同士の話し合いから読み取らせる際の教師の発問がやや甘かった。

- ・年五十ばかりなる男の言動と義経の言動の違いは、平家と源氏の地位や生活習慣の違いによるところがあることを理解させ、次時には本時で書いた吹き出しの台詞を使って与一の心情に対する考えを深めさせたいと思う。

### 3 授業研究会から

#### (1) グループでの言語活動について

- ・4人の少人数グループに編成したことによって、個々の生徒の様々な意見をお互いに交換することができた。
- ・自己主張の強い子が自分の意見を通そうとしてしまう場面も見られたが、全体での話し合いを通して他の生徒の意見も理解していたように思われる。
- ・話し合いの中で意見をグルーピングしていた班があった。そして根拠を確認し合い、懸命にまとめようとしていた。
- ・意見主張をし合っていてなかなかまとまらないグループもあったが、授業者がどちらの意見も拾ってまとめていく支援を行っていたので、納得した形にまとまっていたようである。
- ・話し合いの前後で他の考え方に共感し、自己の考え方を変更する生徒も見られた。
- ・グループで意見をまとめる際には、「根拠のしっかりした意見」という助言が有効にはたっていた。
- ・個々の意見をしっかりもってグループの話し合いが行えたところが良かった。
- ・リーダーとなる生徒がいた班は活発な話し合いができていた。
- ・「おもしろさ」「情けなし」の現代の意味との相違点を押さえた上で個々に考えさせたり、グループで話し合わせたりしたことで登場人物の心情を的確にとらえられた。



#### (2) 改善点として

- ・「台詞」と「その台詞の根拠となる心情」を別紙で書かせたが、授業者が黒板に掲示して確認させる際に掲示しなかったのではないかな。
- ・各グループの発表を班の場所からさせたが、前に出て黒板に掲示させて発表させた方が見やすく聞き取りやすかったのではないかな。

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

- ・マンガを用いるなどの工夫により、学習意欲が高まった。
- ・用語の意味をとらえるところもやって良かった。
- ・言語活動は教え合うのではなく、話し合いで高めていくこと。自分の意見をもたせたことで、よい話し合い活動ができた。

#### (2) 課題

- ・個々の意見として「与一の葛藤」をとらえていた生徒が多数いたにもかかわらず、グループでまとめた意見としては少なくなってしまう。話し合い後は個に戻し、

自分の考えを振り返らせ変更する時間も与えた後に、机間巡視で確認した様々な意見を意図的に発表させるなど、個の意見を埋もれさせない工夫が必要である。

- ・グループ内と全体に発表する場での言葉遣いなどの違いを意識させ、場に応じた話し方の違い、話し合いのルールを指導する。
- ・場面毎の読み取りをコンパクト化、重点化することで、話し合いには時間がかかるという問題を解決していく。

## 実践例2 第3学年社会

### ① めざす生徒像

社会科の基礎・基本のうち、資料から社会的事象を的確に読み取り、判断し表現できる能力を身に付けさせる。

### ② 具体的な授業展開の工夫

- ・学習内容に関わる絵図・写真・統計資料などを提示したり探させたりする。
- ・資料を読み取り、判断・表現する時間を単元ごとに意図的・計画的に設定し、資料から分かる事実と自分の考えや意見を短く分かりやすくまとめさせる。その際、個人でまとめさせる時間とグループでの話し合い、全体の場での発表や話し合いといった一連の授業展開を設定する。

平成23年6月15日（水）第2校時  
3年2組 於 3年2組教室  
指導者 馬場英行

### 授業の視点

ハンバーガーショップの出店場所を考える学習に、小グループでの話し合い活動を取り入れたことは、経済への興味・関心を高めるのに効果的であったか。

## 1 本時の学習

### (1) ねらい

ハンバーガーショップの出店場所を考えることを通して、経済への興味・関心をもつ。

### (2) 準備

教科書、ワークシート、①～⑤の出店場所のカード、付箋紙、台紙

### (3) 展開

過程	時間	学 習 活 動	学習活動への支援・留意点 ★努力を要する生徒への支援 ☆十分満足できる生徒への支援
把握	5	1. 本時の学習課題を把握する。 【学習課題】 ハンバーガーショップをどこに出店するか考えよう。	・本時の学習課題を伝える。 ・出店候補場所の様子について、教科書の絵地図や資料をもとに教師が説明する。
追	10	2. 絵地図、資料①②、キャラクターのセリフを参考に①～⑤の場所のプラス面とマイナス面を考え、付箋紙に記入する。	・5カ所の出店候補場所のプラス面とマイナス面をできるだけ多く付箋紙に書かせるように指示する。なお、プラス面は青色、マイナス面は桃色の付箋紙に書かせる。



究	15	(個人作業) 3. 各自の考えたプラス面とマイナス面をグループで出し合い、出店場所を検討する。 (グループでの話し合い)	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表したプラス面とマイナス面の付箋紙を台紙にはらせる。</li> <li>5カ所の出店場所をランキングさせ、①～⑤の出店場所を示すカードをもう一枚の台紙にはらせる。その際、選んだ理由も書かせる。</li> </ul>
	10	4. 各グループで話し合った結果を黒板に書き、台紙も示しながら全体に発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループの代表2名に黒板と台紙を活用してプレゼンテーションをさせるようにする。</li> </ul>
解	10	5. 発表結果を参考にして自分の考え(出店場所とその理由)をワークシートに書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態に応じて以下のような個別の指導や支援をする。</li> </ul>
決		<p>— 予想される生徒の姿 —</p> <p>①立地条件や購買層、人の動きなど複数の理由を書いている。</p> <p>②一つは理由が書けている。</p> <p>③出店場所も理由も書けない。</p>	<p>☆【①の生徒に対して】2号店が開店し、売り上げが落ちない工夫を考えさせ、ワークシートに記入させる。</p> <p>【②の生徒に対して】他にも有利な条件がないか資料を見るよう問いかける。</p> <p>★【③の生徒に対して】絵地図や資料から立地条件や人の動きなどをヒントとして助言する。</p>
ま		<p>【評価項目】 関心・意欲 (観察、ワークシート)</p> <p>○ハンバーガーショップの出店場所とその理由を、意欲的に考えている。</p> <p>◎ハンバーガーショップの出店場所とその理由を、多面的かつ意欲的に考えている。</p>	
と		6. ①～⑤のどこを出店場所に選んだか、挙手する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラス全体では①～⑤のどこが一番か挙手させて確認する。</li> </ul>
め			

## 2 授業を終えて

本時は、経済分野の導入として、ハンバーガーショップの出店場所を考えることを通して、経済への興味・関心を高めることをねらいとする。このねらいを達成するために、校内研修で取り組んでいる言語活動をグループでの話し合い活動として取り入れた。

5つの出店候補地のプラス面とマイナス面をまずは個人でじっくりと考えさせたため、グループでの話し合い活動の時、さまざまな意見が活発に出された。

5カ所の出店場所をランキングさせ、①～⑤の出店場所を示すカードをもう一枚の台紙にはらせる際に、縦軸と横軸の基準を各グループに考えさせたが、生徒にとってやや難しかったようである。



↑各自、出店場所の検討中

### 3 授業研究会から

- ・教師の説明、指示が短く的確な発問だったので、生徒は集中して考えたり話し合ったりすることができた。
- ・教科書の出店条件を与えずに、どうしてそこに出版するか考えさせると、さらに表現活動が活発になったであろう。
- ・活発な班活動が行われていたが、ほとんどの班で女子が中心となって活動していた。話し合いのルールがあるとよいことが再確認された。



↑グループで出版場所をランキング

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

- ・各学年とも、様々な資料を提示し、資料から読み取る作業を授業に取り入れることができた。
- ・資料から分かる事実を自分の言葉で短く分かりやすく表現できる生徒が徐々に見られるようになった。

#### (2) 課題

- ・いまだに半数以上の生徒が、自分の言葉で分かりやすくまとめることができていない。
- ・資料から読み取った社会的事象を分かりやすく表現した具体例を教師が示したり、グループ活動の中で友達の表現を参考にさせたりして、指導を重ねていきたい。
- ・グループや全体での協議の仕方を工夫して、より多面的に生徒の意見を引き出せるようにしたい。



↑グループで話し合った結果を板書

### 実践例3 第2学年数学

#### ① めざす生徒像

基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけ、目的意識をもって主体的に課題に取り組み、見いだした性質や解決の方法等を、他の人に「自分なりに説明し、伝え合う」ことができる生徒

#### ② 具体的な授業展開の工夫

根拠を明らかにし、筋道を立てて体系的に考えたり、言葉や数、式、図、表、グラフなどの相互の関連を理解し、それらを適切に用いて問題を解決したり、自分の考えを分かりやすく説明したり、互いに自分の考えを表現し合ったりする等の活動を意図的・計画的に取り入れる。



— 授 業 の 視 点 —

1人学びで考えたことをもとにグループ学習と一斉学習での話し合い活動(表現活動)に臨ませたことは、筋道を立てて連立方程式の文章題を解く上で効果的であったか。

1 本時の学習

(1) ねらい

道筋を立てて連立方程式の文章題を解く手順を覚えることができる。

(2) 準備

教科書 ポイントカード くり返しマスター

(3) 展開

学 習 活 動	時間	支援・指導上の留意点	評価項目(観点)・方法
1. 本時の学習課題を把握する。		<p style="text-align: center;"><b>問 題</b></p> <p>片品町では、毎月1回、ボランティアで町内の清掃をしています。今月の参加者は38人でした。これは先月に比べて、大人は20%減り、子どもは10%増え、全体では2人減りました。今月の大人と子どもの参加人数を求めなさい。</p>	
2. 各自で、文字にするものを決め、連立方程式を立式し、解く。	12	<p>○式を立てるには、まず何を文字にするのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文字で表すものは、1年次の方程式で学習した、「分からないもの、求めようとするもの」であることをおさえる。</li> <li>分からないものである、先月の大人を<math>x</math>人、子どもの数を<math>y</math>人にするのは、生徒が気づくようにする。</li> <li>どのような予想でも良いので、まず自分なりの予想をもつよう指示する。</li> <li>予想がもてた生徒には、その文字を使って立式するよう助言する。</li> <li>考える時間を十分に与え、生徒の状況に応じた個別指導に心がける。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>予想される生徒の反応 I</b></p> <p>①先月の大人<math>x</math>人、子ども<math>y</math>人          ②今月の大人<math>x</math>人、子ども<math>y</math>人          ③先月の参加者<math>x</math>人、今月の参加者<math>y</math>人          ④その他          ⑤分からない</p> <p>▼T1, T2は予想される生徒の反応④, ⑤の生徒に適切なアドバイスを。その際、「求めるもの・分からないもの」は何かを生徒自身に考えさせ、予想の手助けとなるようにする。</p> <p>○何を文字にするか予想できた生徒は、文章</p>	

		<p>題に適した式を考える。</p> <p><b>予想される生徒の反応Ⅱ</b></p> <p>① <math display="block">\begin{cases} x+y=40 \\ 0.8x+1.1y=38 \end{cases}</math></p> <p>② <math display="block">\begin{cases} x+y=40 \\ -0.2x+0.1y=-2 \end{cases}</math></p> <p>③ ①, ②の式の小数を分数とする式</p> <p>④ <math>0.8x+1.1(40-x)=38</math></p> <p>⑤ 上記以外</p>	<p>・問題を自力で解こうとしている (関心・意欲) 【観察】</p>
3. グループで話し合い、連立方程式をつくり、解く。	23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4人または3人ずつのグループに分け、話し合わせる。</li> <li>・自分の考えをもとに、何を文字にするとよいか、式はどのような立式できるのかを自分の考えと比較検討する。</li> <li>・互いにプリントを見合い、教え合わせられるようにする。</li> <li>▼T1は前の方のグループ、T2は後ろの方のグループを担当し、グループの話し合いの様子を観察する。</li> <li>・「求めるもの」と「分からないもの」は何かを話し合って明確にする。</li> <li>・グループ全員の考えをまとめ、班で立式するよう指示する。</li> <li>・解き方で迷っている生徒がいる場合は、適宜助言する。</li> <li>・分からない、解けない問題があるかどうか確認し、ある場合にはきちんと補足説明し、その生徒の理解度を高めるようにする。</li> </ul>	
4. いろいろな解き方を発表し、検討する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板に解き方を書く班を募り、すすんで生徒に発表させたい。</li> <li>・挙手がなかった場合は、指名発表させる。</li> <li>・間違ってもいいので自主的に前に出て解くよう指示する。</li> <li>・聞き取りやすい説明となるよう声の大きさに気を付け、説明が終わった際には質問を受け付けるような発表とさせる。</li> <li>・正しい解き方である場合には、できたことをきちんと褒め、生徒の学習意欲がさらに高まるようにする。</li> <li>・間違っていた場合には、解いた生徒と順に解き方をチェックしながら説明し、間違った箇所を生徒が自分で気づけるようにする</li> <li>・生徒のいろいろな解き方を紹介し、自分の解き方と比較させ、より合理的な解き方に気づかせる。</li> </ul>	<p>・筋道を立てて問題を解くことができる (表現・処理) 【観察・ノート】</p>
5. 類似問題を解く。 6. 5の終了者は	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣同士で教えあわず、自力で解かせる。</li> <li>▼T1, T2は机間支援により個別指導をするとともに、採点する。</li> </ul>	

問題集で類似問題を解く。		・類似問題が解けた生徒は、問題集の問題をノートにするよう指示する。	
7. 本時のまとめと次時の学習内容を知る。	5	・本時の学習の重要なポイントをまとめる。 ・次時の学習内容は、買い物と速さの連立方程式の文章題を解く学習であることを伝える。	

## 2 授業を終えて

本時は15時間予定の13時間目であり、単元のまとめ段階にある練習問題の1つを学習課題とした授業である。学習課題は、割合(百分率)を含む連立方程式を用いて解を求めるものであり、生徒にとってはやや難しいと感じるものである。授業研究会では、「何を $x$ や $y$ にするかおさえたり、表にして分かりやすくしたりする」方が良いという意見があった。しかし、本時はまとめの問題であり、あえてそのような支援をせずに自力で解く学習過程を進めた。さらに、本単元では立式の際には、図や表などを活用したり、文章題を解く手順を生徒の言葉でまとめたり丁寧な指導してきたので、少しでも身に付いているかどうか把握する点からもそのような指導にした。

## 3 授業研究会から

- ・「分からないもの」、「求めようとするもの」を文字で表すことをおさえ、話し合い活動をさせていて、お互いに考えを伝え合い表現活動が活発であった。
- ・難易度のある問題ではグループで話し合いの必然性があり、他の生徒の意見から自分の意見を練り上げていて効果的だった。
- ・グループの話し合いでは、いろいろな考えが出され、考えを深められて効果的だった。
- ・自力では分からなかったが、グループでの話し合いによって、 $x$ 、 $y$ を何にするかとらえられ、4名の生徒に解法を板書させ説明させたことは視覚で違いがとらえられ、よく考えるきっかけとなった。
- ・グループで出た意見を、それぞれ比較し、最終的に答えまで導いていて、表現活動がねらいに迫るものであった。
- ・しっかりとした意見を1人が発表すると、グループの他の生徒はその考えに同意してしまうところがあった。全員が発表できるよう話し合いのルールがあると、スムーズに話し合いがなされて良いと思う。
- ・グループ学習の良い点でもあり、悪い点でもあると考えられるが、グループの中でできない生徒はできている生徒のノートを写している生徒がいた。



## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ・グループで自分の考えを発表するという事になっているので、少し難しいと思ってしまうと考えることを諦めてしまう生徒が少なくなり、意欲的に取り組む生徒が多くなってきている。

- ・「話し合いの進め方」に沿って、グループの表現活動が1つのルールに従ってスムーズに行えるようになった。
- ・人前で話すことが苦手な生徒も、3, 4人のグループの中では自分なりの考えを發表することができるようになってきている。
- ・グループの意見を發表することで、色々な考え方があることに気づけるようになり、が課題の見方や考え方に深まりがみられる。

(2) 課題

- ・数学的な用語を使って、論理立てて説明できる生徒が少ないために、良い考えか、悪い考えかは別として、グループの中でしっかりと意見を述べる生徒がいると、その意見に流れてしまう傾向にある。
- ・少し難しいと思ってしまうと考えることを諦めてしまう生徒がいるので、その生徒の状況に応じた適切な個別指導に心がけ、全員が自分なりの考えをきちんともてるようにする。
- ・授業では理解できても、きちんと復習する家庭学習の習慣化が身に付いていない生徒が多く、単元テストでは基本の問題の達成率が悪い時がある。

実践例4 第3学年数学

平成23年1月8日(火) 第5校時 於3年1組教室  
 指導者 T1:吉田 翔一 T2:吉野 繁夫 T3:鈴木 節夫

— 授業の視点 —

2点間の距離を求めるための話し合い活動(ペア学習)は、縮図を利用して実際の2点間の距離や建物の高さを求める上で有効であったか。

1. 本時の学習

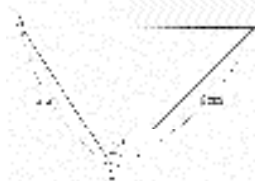
(1) ねらい

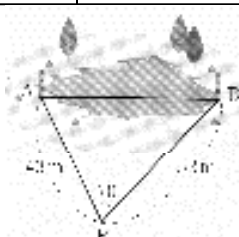
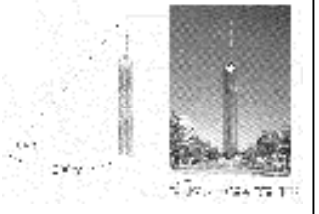
縮図を利用して、実際の2点間の距離や建物の高さを求めることができる。

(2) 準備

教科書「中学数学3」(日本文教出版), 学習プリント, 三角定規, 分度器

(3) 展開

学習活動	時間 (分)	学習活動への支援・留意点 ★努力を要する生徒への支援 ☆十分満足できる生徒への支援 T1   T2, T3	評価項目 ○おぼろげに記 ◎十分記
1. 図を作成し、2点間の距離を実際に測る。  ○分度器, 定規を用いて実物大の△ABCを学習プリントに作図する。	10	右の△ABCを実際にかいて、ABの長さを求めなさい。  ◇2点間の距離を、図を作成して実際に測って求めることにより、いろいろな場面での2点間の距離を求めようとする意欲を高めることができるようにする。 ◇T1, T2は、作図のかき方でつまづいている生徒の個別支援に心がける。	

<p>2. 課題を見出す。  <b>2点間の実際の距離を求めよう</b></p> <p>○ペア学習で、課題の2点間の距離を求める方法を考える。      ・実物大の大きさの△ABPをかいて求めることは困難である。</p> <p>○実際の長さの図形を紙にかくことが容易でない大きさの2点間の距離、あるいは測ることが困難な2点間の距離があることに気づく。</p> <p>○改めて2点間の距離を求める方法を考えさせ、解決の方法を考え見通しを持つ。      ・縮図をかいて、その長さを求める。</p>	<p>【問題】右の図のような、池の両端にある2地点A、B間の実際の距離を求めなさい。</p> 
<p>3. 縮図をかいて2点間の距離を求める。      ○縮尺を決定する。</p> <p>○縮図をかく。</p> <p>○求める距離に対応する線分の長さを求める。</p> <p>○相似比を利用して実際の距離を求める。</p>	<p>2 0</p> <p>◇生徒から出た意見や生徒同士のつぶやきを拾い上げたり、明るい調子で声がけを行なったりすることにより、2点間の距離を求める方法を自由に発想できるようにする。</p> <p>◇出てきた意見を具体的な手順を基に話を進め、実際に紙に図形をかくことが容易でない大きさの2点間の距離であること、あるいは測ることが困難な2点間の距離であることに気づかせる。</p> <p>◇T1, T2は、縮尺をいくつにするか、また作図できないでいる生徒の個別支援に心がける。</p> <p>◇相似条件のうち、どれを使ってかいているか気づかせたい。</p> <p>◇有効数字や誤差についてはあまりこだわらず、柔軟に対応する。</p> <p>☆1つの解決方法を見出すことができた生徒には、他の解決方法を見つけるように指示を出し、多様な考え方ができるようにする。</p> <p>◇距離を求めることができた生徒には、解決の手順を説明させることにより、処理の理解を深めさせる。</p> <p>◇縮図を利用することで、実際に紙に図形をかくことが容易でない大きさの2点間の距離、あるいは測ることが困難な2点間の距離を求めることができることを体験させ、縮図の良さを理解できるようにする。</p> <p>★相似でない縮図をかいた生徒については、相似比(縮尺)を求めさせ、正しい縮図をかくことができるようにする。</p> <p>★正しい縮図をかくことはできたが、正しい2点間の距離を求めることができない生徒については、相似比(縮尺)を確認するよう指示を出し、確実な処理が定着できるようにする。</p> <p>☆1つの縮図だけでなく、異なる縮尺の縮図をかいて距離を求めるよう指示を出し、数学的考え方を深められるようにする。</p> <p>★単位の換算ができない生徒については、1m=100cmであることを確認し、0の個数に注目すれば良いことに気づかせる。</p> <p>★縮図をかくことができない生徒については、1つの線分に注目させ、その線分の長さに含まれる数から縮図の対応する線分の長さを決定することで、縮尺を決定することができることを気づかせる。</p> <p>☆1つの縮図だけでなく、異なる縮尺の縮図をかいて距離を求めるよう指示を出し、技能の理解を深めることができるようにする。</p>
<p>4. 縮図をかいて建物の高さを求める。      ○求める手順の見通しを持たせる。      ・図に含まれる数量から縮尺を決定する。      ・縮図をかく。      ・求める距離に対応する線分の長さを測る。      ・相似比を利用して実際の距離を求める。</p> <p>○縮図をかいて建物の高さを求める。</p>	<p>【問題】右の図のような建物の高さを求めなさい。</p>  <p>1 5</p> <p>◇T1, T2は、解決の手順を分かりやすく書けないでいる生徒や書けないでいる生徒に適切に言葉かけをし、個別支援に心がける。</p> <p>◇有効数字や誤差についてはあまりこだわらず、柔軟に対応する。</p> <p>★単位の換算ができない生徒については、1m=100cmであることを確認し、0の個数に注目すれば良いことに気づかせる。</p> <p>★縮図をかくことができない生徒については、1つの線分に注目させ、その線分の長さに含まれる数から縮図の対応する線分の長さを決定することで、縮尺を決定することができることを気づかせる。</p> <p>★相似でない縮図をかいた生徒については、相似比(縮尺)を求めさせ、正しい縮図をかくことができるようにする。</p> <p>○縮図を利用して2点間の距離や建物の高さを求めることができる。</p> <p>◎適当な縮図を利用して、実際の2点間の距離や建物の高さを求める</p>

		<p>★正しい縮図をかくことはできたが、正しい2点間の距離を求めることができない生徒については、相似比(縮尺)を確認するよう指示を出し、確実な処理が定着できるようにする。</p> <p>☆距離を求めるための解決の手順を文章や図、色を使って分かりやすくまとめ、数学的思考方を深めることができるようにする。</p> <p>☆1つの縮図だけでなく、異なる縮尺の縮図をかくて距離を求めるよう指示を出し、数学的思考方を深められるようにする。</p> <p>◇前問から、距離を求める手順を確認する。</p> <p>◇距離を求めるための解決の手順を学習プリントに記述させることにより、確実に知識が定着できるようにする。</p>	<p>ことができる。</p> <p>【処理・表現】 (発表、プリント)</p>
5. 本時の学習を振り返り、縮図を利用して2点間の距離や建物の高さを求めることができることを確認する。	5	<p>◇本時を振り返らせることにより、実際に紙に図形をかくことが容易でない大きさの2点間の距離、あるいは測ることが困難な2点間の距離でも縮図をかくことによってその距離を求めることができることを確認する。</p> <p>◇日常生活で相似を利用して求めてみたいと思うものを発表し合い、数学への関心意欲を高められるようにする。</p>	

## 2 授業を終えて

本時は、2点間の距離を見通しを持って求めるために話し合い活動(ペア学習)を行い、縮図を利用して実際には測定が困難な2点間の距離や建物の高さを求める授業である。話し合い活動は、ほとんどの生徒は大変意欲的に学習に取り組むことができた。内容については、①実際の大きさで図をかいたり、その長さを測定したりすることが困難であることを知り、②既習事項である相似の図形を利用して、長さを求める、③適切な相似の図形の縮尺を決定する、であるが、③までたどり着いたペアは少数であった。

## 3 授業研究会から

- ・生徒とのやりとりで授業が進められ、ペア学習では気づくことができなかったことを全体で考えの共有を図ることができた。
- ・多くの生徒が手順を理解して、積極的に2点間の距離を求めている。

## 4 成果と課題

ペア学習を通して、生徒自身の思考を高め合うことができ、見通しを持って課題解決をすることができた。一方で、③適切な相似の図形の縮尺の決定まで考えたペアは少数であった。生徒の思考に対して助言だけでは不十分であり、学習プリントや普段の授業における思考の習慣の改善が必要であると考えられる。

### 実践例5 第1学年理科

#### ① めざす生徒像

自ら進んで課題を設定し、その課題に向かって授業や観察・実験を通して解決しようとする生徒

#### ② 具体的な授業展開の工夫

言語活動を取り入れる際に3人班を基本とする。話し合いには意見交換の時間を十分取り、一人一人が積極的に活動できるような展開を取り入れる。アドバイスはするが、生徒が実験方法などを考えている場面などで間違った方向に進んでいたとしてもアドバイスしながらなるべく生徒の考えを尊重していく。

授 業 の 視 点

自分の考えから班としての考えをまとめる話し合い活動は、圧力の概念を導き、理解させるのに効果があったか。

1 本時の学習

(1) ねらい

力の大きさが同じでもふれ合う面積が違くと重く感じたり軽く感じたりすることから、力のはたらきはふれている面積が違くと異なることに気づき、圧力について理解できる。

(2) 準備

トイレットペーパー、単1形乾電池、電子天秤、スポンジ、炭酸瓶、剣山

(3) 展開

学 習 内 容	教師の活動及び支援	罫	評価の観点
<p>●乾電池はどちらの掌の上でしょう。(両目を閉じて)</p>	<p>○班ごとに準備させ、全員に実際に両手に持たせて比べさせる。</p>	10	
<p>●乾電池とトイレットペーパーで、どちらが重く感じますか？(両目を閉じて)</p>	<p>○先入観を持たせないようにする。</p>		
<p>○ワークシート記入</p>	<p>○ワークシートを配る</p>	15	
<p>●トイレットペーパーより単1形乾電池の方がなぜ重く感じられたのでしょうか、 また、掌の物体が何だかわかるのはなぜでしょうか。その理由を考えてみましょう。</p> <p>・自分の考えをワークシートに記入する ○掲示用に班として簡単にまとめ→黒板に掲示</p> <p><b>予想される生徒の反応</b></p> <p>①手に触れている面積が違うから力が集中するのではないか ②金属だから重く感じるのではないか</p> <p>○手に触れている面積が違うから物体の種類がわかったり、同じ質量でも面積が小さいから重く感じる。</p> <p><b>同じ重さ(質量)の物体でもふれている面積が大きいと押</b></p>	<p>○手に載っている物体がわかったり、重さの感じ方が違う理由は同じである。</p> <p>●物体の質量と接する面積の関係がうまく考えられない場合の支援</p> <p>・乾電池やトイレットペーパーの下に段ボールを敷かせ、そのまま持ったときと重さの感覚の違いをもう一度確かめ、何が違うか考えさせることで手に触れている面積が違うことを導き出す。</p> <p><b>予想される生徒の反応についての支援</b></p> <p>1)単に面積とした場合は、どんな面積かを導き出す。</p> <p>②重く感じることと素材は関係ないことに気づかせたい。</p> <p>○考えの元になった根拠や経験は書ける人は</p>		

す力は小さくなり、面積が小さいと押す力が大きくなるのではないだろうか	書くよう指示する。		
○実験を行う 面積小→へこみ大 面積大→へこみ小	○炭酸入りの瓶をスポンジの上にいろいろな置き方をしてへこみ具合を比較する。	10	Bふれ合う面積の大小で力のはたらきに違いがあることに気づく。 Aふれ合う面積の大小と、力のはたらきに違いがあることに気づき、圧力を理解できる。 (ワークシート)
まとめ 力の大きさが同じであってもふれている面積が大きいと押す力は小さくなり、面積が小さいと押す力が大きくなる。			
○圧力を知る ふれあう面積1m <sup>2</sup> あたりを垂直に押す力のこと		15	
$\text{圧力 (Pa)} = \frac{\text{面を垂直に押す力 (N)}}{\text{力がはたらく面積 (m}^2\text{)}}$			
○圧力を大きくしたり小さくしたりする日常の例を知る	○実際の計算については次時に行う。 ○日常目にすることや体験から気づかせたい。小の例、スキー、キャタピラー、湯スキー、かんじき		
○自由参加実験	大の例、押しピン、針、杭など ○いくつかの剣山の上に上履きを抜いて載らせる。		

## 2 授業を終えて

本時のねらいは、『力の大きさが同じでもふれ合う面積が違くと重く感じたり軽く感じたりすることから、力のはたらきはふれている面積が違くと異なることに気づき、圧力について理解できる。』ことである。そのために本時では触れている面を変えて同じくらいの質量の物を掌にのせたときの押され方の違いを感じ取ることにより、触れている面積が違くと力の大きさが異なることを見いだすことにある。



生徒は、先入観や感じ方の異なりから必ずしもトイレットペーパーが重いとは感じないが、実際にはトイレットペーパーの方が若干重い。それなのになぜ、乾電池の方が重く感じるのかを疑問に持たせる導入・展開とした。重さの感じ方の違いは面積の違いによるものであることに気づきにくい班は、段ボールを掌にのせて同じ実験を目をつぶらせて行うことにより、掌に触れる絵面積を同じにすると左右どちらの掌に乾電池やトイレットペーパーが載っているかわからなくなることとヒントとして展開した。最終的にはほとんどの班が面積の違いに気がつく結果となった。

## 3 授業研究会から

(1) 主題『基礎・基本を確実に身につけ、意欲的に学習生徒の育成』の視点から

身近な物で色々な実験を取り入れ、生徒に興味・関心をもたせる授業であり、生徒の知的好奇心が高まったといえる。若干違う班の考えから共通することをさらに話し合わ



せるとさらに良かった。

(2) 副主題『言語活動を中心とした表現活動の工夫を通して』の視点から

理科における言語活動は予想したり、実験方法を考えたり、結論を導いたりすることで大変重要なことである。ただ、あまり堅苦しい活動にすると意見が木偶委こともあるため、フリートーク形式が一般的である。本授業における班活動は3人というバランスで行った結果、一人が書いて、一人がリードして、一人が発表する形態がとれた。ただ、実験道具等の関係や学習課題によっては臨機応変な班編制が必要なときもある。

#### 4 成果と課題

圧力の概念がある程度理解できた後、圧力の単元には計算によって圧力を導くことが要求される。生徒の多くは計算になると戸惑うことが見受けられるので、繰り返しの練習が必要であると感じる。学年によって多少差が見られるが、課題を解決する力は余り定着が見られなかったように思われる。生徒は、与えられた課題に対しては積極的に取り組むことはできるが、そこから新たな疑問を持つことは少なかった。

生徒に予想させ、それを実験させることは生徒のやる気ややってみようという気持ちを喚起させることに大変有効である。ただ、生徒が生活体験や知識的に不足しているところスムーズにいかないことが多かった。

実験道具の使い方などもあまり定着が見られない器具もあったので、その都度指導していくよう心がける。

#### 実践例7 第2学年理科

平成23年9月28日(水) 第5校時  
2年2組 (於: 第1理科室)  
指導者 野上 和栄

#### 授 業 の 視 点

学習活動に自力解決(自分の考えをもつ)と集団解決(考えを伝え合う)の場を設定したことは、科学的概念を使用して自分の考えをまとめ、集団での伝え合う活動を通して考えを深め合うことに有効であったか。

#### 1 本時の学習

##### (1) ねらい

磁界どうしのはたらき合いを考えたり話し合ったりする活動を通して、電流の大きさを変えるとコイルにはたらく力の大きさが変化すること、電流が流れる向きや磁石の磁界の向きを変えるとコイルにはたらく力の向きが変化することを説明できる。


##### (2) 準備

ワークシート、実験計画書、ホワイトボードシート、ホワイトボード用ペン

##### (3) 展開

学 習 活 動	時 間	学習への支援・留意点 ★努力を要する生徒への支援 ☆概ね満足できる生徒への支援	評価項目【観点】(方法) ○おおむね満足 ◎十分満足
1. 本時の学習内容を知る。	2	○実験7の結果を振り返り、電流の大きさとコイルにはたらく力の大きさとの関係、電流の向き・磁界の向き・力の向きとの関係について考えることを知らせる。	
2. 電流の大きさとコイルにはたらく力の大き	15	「電流の大きさとコイルにはたらく力の大きさとの関係、電流が流れる向きや磁石の磁界の向きと、コイルにはたらく力の向きとの関係はどのようにな	

<p>きさの関係、コイルに流れる電流の向きや磁石の磁界の向きと、コイルにはたらく力の向きとの関係について、自分の考えを持つ。 「電流の大きさと力との関係は、磁力線の幅を参考に考えるとよいのかな」 「電流や磁界の向きと力との関係は、1年の時に学習した力のつり合いから考えるとよいのかな」</p>	<p>っていますか」</p> <p>○まず、実験7の結果から、磁界の中のコイルに電流が流れるとコイルが動き出すことを確認する。 ○電流の大きさとコイルにはたらく力の大きさとの関係は、電流が大きくなると磁界が強くなったことに着目してまとめさせる。 ○コイルに流れる電流の向きや磁石の磁界の向きと、コイルにはたらく力の向きとの関係は、基本となる最初に実験した結果を考えさせ、電流で作られる磁界の向きと磁石で作られる磁界の向きの2つの方向に着目してワークシートにまとめるように促す。 ○コイルに流れる電流の向きと磁石の磁界の向きに着目させ、コイルにはたらく力の向きは、2つの磁界の向きが逆向きになったところに力がはたらくことに気付かせる。 ★実験7の電流や磁界の向きとコイルの動いた方向を思い出させ、コイルに流れる電流の向きや磁石の磁界の向きとコイルにはたらく力の向きについて考えさせる。結論が導き出せない場合には、電流による磁界の向きと磁石の磁界の向きが同じ場合は強め合い、逆の場合は打ち消し合うことも関係づけて考えることを知らせる。 ○ワークシートには、文章だけではなく、図や表を使ってまとめても良いことを知らせ、自分の考えをより明確な方法を使って表せるようにする。 ○電流による磁界の向きと磁石の磁界の向きが同じ場合は強め合い、逆の場合は打ち消し合うことを、力のつり合いに関連付けながら2つの磁界が向く方向に着目させて気付かせる。 ☆1つ目の結論が導き出せたら、他の電流や磁界の向きを変えたとき、どのような方向に力がはたらくかを、最初に出した結論を参考にして考えるようにさせる。</p>	<p>〔自力解決〕</p>   
<p>3. 磁石の磁界の向きと、コイルに流れる電流の強さと向き、コイルにはたらく力との関係について、班で話し合い、考えをまとめる。 「自分と同じところはどこか、また、違うところはどんなところだったかな」 「友達の考えも取り入れてまとめていこう」 「電流の大きさ、電流の向きや磁界の向きによって力のはたらく向きが決まって</p>	<p>28 5</p> <p>「各自が考えた結果をもとに話し合い、電流の大きさとコイルにはたらく力の大きさ、コイルに流れる電流の向きや磁石の磁界の向き（極）から、コイルにはたらく力の向きとの関係をまとめてみましょう」</p> <p>○各自が考えたことを発表し、自分の考えと異なる友達の見解については、ワークシートに朱書きでメモさせる。☆他の3つにも、最初に出した1つ目の結論を参考にして考えることを促す。 ○多くの考えを出し合い、磁界の中を流れる電流にはたらく力や、磁界どうしのはたらき合いに着目しながら話し合いを進めさせる。 ★話し合いに参加できない生徒には、自分が考えた意見をもとに自信を持って発表するよう助言する。 ○電流や磁石の磁界の向きを逆にすると、導線にはたらく力の向きがどうなるかを考える。 ○電流による磁界の向きと磁石の磁界の向きが同じ場合は強め合い、逆の場合は打ち消し合うことから、力のはたらく向きは、磁界の強め合う方向から弱め合う方向に向かうことを発見させる。 ○友達の考えで新たに発見したことは朱書きし、自分が知らなかったことに気付かせる。他の3つについても班の中で話し合い、それぞれの場合の磁界の向きと力との関係も一般化させる。 ○班で話し合った結論をホワイトボードシートに記録させながら、班の考えを集約させていく。</p>	<p>〔集団解決〕</p> <p>○いくつかの実験結果で、磁石の磁界の向き、電流が流れる向きと大きさから、コイルにはたらく力の向きや大きさについて、図などをもとに説明できる。 ◎磁石の磁界の向きや、電流が流れる向きとその大きさから、コイルにはたらく力の向きや大きさを磁界どうしのはたらき合いにも関連づけ、他の実験結果についても説明できる。 【思考・表現】 (観察/ワークシート)</p>

<p>いくのかな」</p> <p>4. 本時のまとめをする。</p>	<p>○班でまとめた考えを発表させ、自分たちの班と同じ考え、異なる考えを取り上げながらまとめる。話し合いの結果を集約し、電流の大きさや電流の流れる向きと磁石の磁界の向きから、コイルにはたらく力の大きさや向きが決まることをおさえさせる。</p> <p>○本時の学習を振り返り、電流の大きさと力の大きさの関係、電流の向きや磁界に向きと力のはたらく向きとの関係についての結果を共有させる。</p>	
------------------------------------	---	---

## 2 授業を終えて

学習活動に当たって、自力解決と集団解決の場を設定した。

自力解決の場では、根拠をもって自分の考えをもてるようにしていきたいと考えた。その手立てとしては、観察・実験のまとめや考察の場面で、既習事項を振り返らせる活動を取り入れたり、文章表現が苦手な生徒には図や表でまとめさせる等の工夫を取り入れたりすることとした。このような活動の中から、視点をもたせて自ら考え自力解決を図っていった。

次の集団解決の場では、互いに伝え合って考えを深められるようにしていきたいと考えた。その手立てとしては、教師の演示を取り入れたり、班活動（小集団）での話し合う場面で、それぞれの生徒が自力でまとめたものを話し合わせたり、実験結果をもとに意見交換や集約、発表という話し合い活動から結論を導くようにしていきたいと考えた。また、班活動、発表して共有、まとめて個に返すという授業の流れから、自分の考えを的確に伝えることができたようにした。

これらの活動を通して、自分や伝える相手の目的や意図をとらえ、それに応じて事実等を整理したり、科学的概念を使用したりして考えを修正しながら、思考を深め合うことができたと思う。

## 3 授業研究会から

あらかじめ生徒の反応を予想し、生徒の学習状況に応じた個別支援を行ったので、それぞれの生徒に対応した支援を行うことができていた。生徒は、先行経験や生活体験をもとに身近なところから課題を見付けようとし、自分なりの予想を立てながら意欲的に課題解決に取り組んでいた。まとめる段階で、文章表記が苦手な生徒には図や表を用いて考えをまとめる活動を取り入れることで、イメージとして現象をとらえやすくなり、容易にまとめることができた。

しかし、ワークシートの活用は言語活動の面ではよかったが、話し合いの視点があきりせず、教師の発問の趣旨が理解できない生徒がいたので、発問の仕方を工夫する必要があった。また、強いリーダー性を持った生徒がいる班では、話し合いをリードしすぎ、班全体がこの生徒の意見に流されてしまうことがあり、考えを深めるには至らなかった。

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ・あらかじめ生徒の反応を予想し、生徒の学習状況に応じた個別支援を考えたので、それぞれの生徒に対応した支援を行うことができた。先行経験や生活体験を学習の素地として取り入れた授業展開を図ったので、身近なところから課題を見付けようとしていた生徒が見られた。自分なりの予想をもたせることで、課題の解決に取り組む姿勢がもて、解決の喜びを感じることができた。
- ・実験結果のまとめや考察においては自力解決の時間を設けたので、多くの生徒が実験

結果に基づいての自分の考えをもてるようになった。磁石による磁界の向きと、電流による磁界の向きを「右ねじの法則」で確認したので、努力を要する生徒も磁界のはたらきをとらえることができた。努力を要する生徒へは2つの力のはたらき合いを「フレミングの左手の法則」で各自でイメージすることができた。

- ・問題に対して自分の考えを持つとき、図や表を用いて自分なりの考えをまとめる活動が有効であり、図や表を活用する活動を取り入れたことで自分の考えをもちやすかったと全員の生徒が回答していた。また、ワークシートを活用してまとめる活動は有効であった。
- ・力のはたらく向きは、力が重なって強められる方向から、力が向き合って弱められる方向のはたらくことまで発見できた十分満足の状況の生徒も見られた。
- ・集団解決の場では、グループのリーダーを中心とした話し合いが活発に進められ、意見交換の場から自分の考えを修正することができ、自分の考えを発表したり互いの意見を聞き合ったりする中で考えを深め合うことがとらえられた。また、アンケート結果では9割以上の生徒が新しい考えをもったり、自分の考えを修正することができたと回答していた。
- ・自力解決を図った後、集団解決の話し合いを行ったので、多くの生徒は自分の考えを持ちながら話し合いに参加することができ、話し合い活動が活発に行うきっかけとなった。班の考えをまとめる段階でホワイトボードシートを活用しながら意見交換をしたので、班の意見が容易に修正することができた。また、発表するときにも活用したことは視覚的に確認できてよかった。
- ・言語活動の面で、互いに発表し合う場面にワークシートに記入しながら話し合う活動を取り入れた。新たに得た友達の考えや修正した考えを朱書きで記入しながら考えを深め合うことができたので、ワークシートを活用して話し合う活動は有効であった。

## (2) 課題

- ・全員の生徒に自分の考えをしっかりとらせてから話し合いを進める必要があり、特に努力を要する生徒では、話し合いの中から友達の考えのみを朱書きするだけの生徒がいて、考えを深めるところまで到達していない生徒が見られた。
- ・努力を要する一部の生徒は、自分の考えと他の班の考えとを比較しながら自分の考えを修正する学習活動において、自分の考えの見直しが十分できず、思考を深め合うところまで到達できななかった。
- ・前單元からの継続した班編成であったため、話し合いが活性化しなかった班があった。予めリーダーになる生徒を最低1名ずつ配置し、各班が等質の学力になるような班編成を行うべきであった。

## 実践例7 第1学年英語

### ① めざす生徒像

- ・自分の住んでいる片品村について、自分のことばで生き生きと相手に語り、伝えることのできる生徒。

### ② 具体的な授業展開の工夫

- ・英語教員の多さを生かし、個別支援を重点的に行い、自分の思いを自分の言葉で表現できる生徒を育成する。また、教師や生徒の英語で会話を行う場面を多く設ける。

授業の視点

現在分詞(動詞のing形), Are you ~ing? とその答えの文の口頭練習をくり返したことは、現在進行形の疑問文を聞いてスムーズに応答するうえで有効であったか。

1 本時の学習

(1) ねらい

現在進行形の疑問文の意味や用法を理解し、応答することができる。

(2) 準備

教師：教科書, ワーク, フラッシュ・カード, handouts

生徒：教科書, ノート, ワーク, handouts

(3) 展開

学習活動	時間	主な学習活動への支援・留意点 ★努力を要する生徒への支援 ☆十分満足できる生徒への支援			評価項目【観点】(方法) ○おおむね満足 ◎十分満足
		T1: 小池	T2: 會田	ALT: Brian	
1. 挨拶 ・お互いに挨拶を交わす。 ・Criss cross gameをする。	13	・明るい挨拶をし、英語学習の雰囲気をつくる。 ・教師は生徒に交代で英語質問していく。			
2 前時の学習内容を復習し、進出英文法を導入する。  ・現在進行形の文I am standing now. やYou are standing now. の意味や用法を復習する。  ・現在分詞の口頭練習する。  ・宿題の答え合わせをする。  ・現在進行形の疑問文Are you ~ing? とその答え方Yes, I am. No, I'm not. を理解する。	15	説明するポイントを明確にして現在進行形の文の形と意味を確認する。	T1の指示や説明をしっかりと聞くように指導する。	英文のRepeat練習の時にT1の指示があれば、リードする。	
		練習を生徒と一緒にいたり、机間巡視をし生徒にしっかりと練習させる。	机間巡視をし、生徒がしっかりと答え合わせをするように指導する。	現在分詞の口頭練習をさせる。	
		宿題の答え合わせをする。	机間巡視をし、生徒がしっかりと答え合わせをするように指導する。		
		疑問文Are you ~ing? とその答え方Yes, I am. No, I'm not. を既習のbe動詞の用法を使って、分かりやすく説明する。	T1の指示や説明をしっかりと聞くように指導する。	英文のRepeat練習の時にT1の指示があれば、リードする。	
3 Are you ~ing? を使ってジェスチャー・ビンゴゲームをする。  ・Are you ~ing? の口頭練習をしてスムーズに言えるよう	20	handoutsを配布し、Step1の語を用いて、Are you ~? のpattern prac	机間巡視をし、生徒がしっかりと練習するように指導する。	英文のRepeat練習の時にT1の指示があれば、リードする。	

にする。  ・教師の説明を聞いて、ゲームの仕方を理解する。  ・ジェスチャー・ビンゴゲームをする。		ticeをする。		
		ジェスチャー・ビンゴゲームの説明をする。	生徒がT1の説明をしっかりと聞くように指導する。	
		・handoutsのStep3の文を参考に行う。 ・教師は生徒がジェスチャーをしっかりと行ったり、しっかりと英語で対話ができるように生徒を支援する。		○Are you ~ing? の文や答え方を理解し、応答することができる。 ◎Are you ~ing? の文や答え方を理解し、スムーズに応答することができる。【表現】(観察)
4 次時の予告を聞いて挨拶をする。	2	・次時の予告をする。 ・挨拶をする。		

## 2 授業を終えて

ジェスチャーを交えたこともあり、生徒が現在分詞の口頭練習をしっかりと行い、その後の言語活動も楽しく行えていたと思う。口頭練習を生徒に飽きさせることなく、英語をたくさん練習できるようにいろいろな練習を段階を考慮して取り組ませた。

授業はスムーズに進めることができたが、生徒への文法説明が理解しづらくなかったか、また板書も適切に行えていたかは課題である。また、現在進行形の疑問文を練習できるさらにより言語活動を考えていきたい。

## 3 授業研究会から

現在分詞の口頭練習の場面では、生徒が耳から入った音をもとに、英語ができる・できないにかかわらず、よく取り組んでいた。また、口頭練習や言語活動の場面でも生徒は楽しくジェスチャーをしていた。ジェスチャー・ビンゴゲームを行うことで、進行形の疑問文の練習ができるように言語活動の場面設定に工夫がみられた。

授業がスムーズに進められていた。生徒への文法説明もくどくなく、板書も適切で、生徒への発問も生徒主体で、教師ではなく生徒が言うことで進められていた。また、教師の役割分担がよくできていてチームティーチングがうまく機能していた。

## 4 成果と課題

生徒が現在進行形の疑問文の用法を理解し、意欲的に言語活動にも取り組んでいたことは成果としてあげられる。しかし、研修主題を視点にして授業を振り返ると、話し合い活動の工夫が乏しかったことが課題点としてあげられる。生徒がもっと英語を用いて自分の考えなどを話す活動を取り入れる必要があったと考える。また、授業の時間配分についても、前時の振り返りの時間に授業の半分をとってしまったため、本時の時間を十分にとることができなかったことも課題点としてあげられる。

実践例8 第2学年英語

平成23年11月1日(火) 第4校時

2年1組 於: 2年1組教室

指導者 T1 高山 誠

T2 小池 史敏 ALT Brian Mcgrath

授業の視点

親しみのある先生方や授業者の写真を使って接続詞whenを導入したことは、興味関心を持ち、使用場面を意識して授業に取り組むことに有効であったか。

1 本時の学習

(1) ねらい

接続詞whenを使って、自分のことを表現することが出来る。

(2) 準備

教師: 教科書, ワークシート, 写真, A4白紙

生徒: 教科書, 授業ノート, ファイル,

(3) 展開

学 習 活 動	時 間	学習活動への支援・留意点 ★努力を要する生徒への支援 ☆十分満足できる生徒への支援	評価項目【観点】 ○おおむね満足 ◎十分満足
1. あいさつ	1	○大きな声であいさつをすることで、英語学習の雰囲気を作る。	
2. クリスクロス	4	○楽しく学習が始められるように雰囲気を大切にする。 ★天気やYes/Noで、答えやすい質問を用意する。 ☆疑問詞を使った質問を用意する。	
3. 接続詞whenを使った文章の導入 ・T1, T2, ALTの中学生や高校生の時のことの話をする。	8	○写真を使って、視覚的に分かりやすいようにする。	
4. 接続詞whenを使った文章の理解 ・先生方が昔なりたいたと思っていた職業について想像し、英文で表現する。	12	○ワークシートに例文をのせ、書きやすいようにする。 ★英単語が分からなければ、ローマ字でも良いことを伝える。 ☆分からない英単語も想像させる。	
5. 接続詞whenを使って、自分のことを表現する。 ・小さい頃なりたかった職業。 ・昔こうだったこと。 ・ある場面での出来事。などを考えさせる。	17	○用紙を用意し、英文とその場面の絵を書かせ、イメージを持ちやすいようにする。 ★T1, T2が中心に個別支援を行う。 ☆ALTが中心に会話をしながら支援をする。	○接続詞whenを使い、モデルにならった表現で自分のことを表現できる。 ◎接続詞whenを使い、今まで学習した表現の中から選び、自分のことを表現できる。
6. 本時の学習内容をプリントを使ってまと	7	○書くことで学習の定着を図る。	



める。			
7. 取り組みについての評価・次時の連絡	1	○今後の学習の励みになるような取り組みの評価と次時の連絡を行う。	

## 2 授業を終えて

本時は、接続詞when（～のとき）の表現を学習するにあたり、指導者の学生の頃や幼い頃の写真を準備して、具体的にどのような場面で接続詞whenを用いたらよいかを考えさせながら、導入を行った。展開1では、学年担当の先生方の写真を用意し、中学生の頃なりたかったものを生徒に考えさせ、英文にさせた。展開2では、生徒自身の小さい頃なりたかったものなどを考えさせた。写真は、身近な人達の昔のものということもあり、生徒は興味関心を持ちながら話を聞いている様子が見られた。ただし、Whenが前に置かれる場合と、後ろに置かれる場合に、どこから訳したら良いのかを迷っている生徒も見られた。また、自己表現活動を行う際に、場面設定の説明やアドバイスがやや不足してしまった。個別支援は3人の教員の多さを活かし、重点的に行うことができた。



↑ T1, ALTの大学の頃の話

## 3 授業研究会から

- ・ whenを使った例文を沢山聞きまた話すことを通して、whenの用法に慣れ親しむことができていた。また、親しみのある先生方の例文が生徒の興味関心を高めていた。
- ・ 慣れる・理解する・文をまとめてみる・発表するという段階を踏んだ指導であった。考え、発表することを通して、表現力を高める授業であった。
- ・ 表現する（作文）する活動「表現活動」を質の高いものにするため、whenを使った表現に慣れ親しみ、理解するための繰り返しの活動が有効であった。
- ・ 写真の利用が役立っていた。生徒の興味関心を引くことにつながっていた。
- ・ 全員が話に耳を傾け、まじめに学習している様子がみられた。



↑ T2の幼いころの習い事の説明

## 4 成果と課題

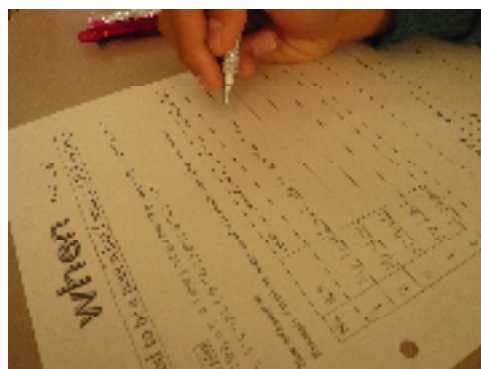
### (1) 成果

- ・ 視覚教材を用いたことは、生徒の興味関心を引いたり、言語材料の使用場面を意識して授業に取り組むことに有効であった。
- ・ 学年の先生方に協力していただいたことで、各先生方が中学生の頃なりたかった職業を、興味を持って考えることができた。



(2) 課題

- ・教師と生徒での英語のやりとりを増やすなど、TT授業の良さを最大限活用しながらの授業展開の工夫が必要である。
- ・自己表現活動を行う際には、十分に時間を確保することと、生徒の考えを最大限生かしながらの個別支援を行っていきけるような工夫が必要である。



↑ 先生方が中学生の頃なりたかった職業を記入

実践例9 第3学年英語

平成23年11月8日(火)第5校時  
 3年2組 於：3年2組教室  
 指導者 會田 華恵 高山 誠  
 E L T : Brian Mcgrath(片品中学校)  
 栗原 あい子(尾瀬高校)

授業の視点

討論のきっかけとして、” I agree with you .” や” I disagree with you .” を用いて意思表示をさせたことは、自分の意見と理由を述べる上で有効であったか。

1 本時の学習

(1) 本時のねらい

書いてまとめた自分の意見とその理由を、発表することができる。

(2) 準備

教師：評価シート、自己反省シート

生徒：自分の意見をまとめたプリント

(「若者は優先席に座っても良いか」「中学生に携帯電話は必要か」「学生に制服は必要か」「中学生は英語を勉強すべきか」からひとつ題を選び、自分の意見をまとめたもの)

(3) 展開 ※教師の動き《進行・評価(會田) 個別支援・評価(高山)

発表上の注意・講評・評価(栗原)発表の進行, 評価(Brian)

学習内容	時間	指導上の留意点 ★努力を要する生徒への支援 ☆十分満足できる生徒への支援	評価項目 ○おおむね満足 ◎十分満足
あいさつ	2分	元気よく挨拶をさせる。	
発表 ① 発表上の注意 ② 個人練習(3分) ③ ペア練習(2分) ④ 発表 前時にまとめた自分の意見とそ	40分	○同じ題を選んだ生徒による、討論の形式をとって発表を行う。(生徒は、自身が書いた題と同じ題の意見発表のあとで、“I agree with you.” “I disagree with you.” を用いて、発表に対する賛成、もしくは反対の意思を示し、自分の	○題に対する自分の意見とその理由を、文章の構成に気をつけてまとめ、発表することができる。

<p>の理由を発表する。</p>	<p>意見を発表する。)</p> <p>○発表の進行のしかた，発表の際の注意点を確認する。</p> <p>【発表者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はっきりとした大きな声で，笑顔で発表する。</li> <li>・ゆっくり・聞き手とアイコンタクトを取りながら発表する。</li> </ul> <p>【聞き手】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表中は静かに・注意深く聞く。</li> <li>・発表の参考になる点を見つける。</li> </ul> <p>★自信をもって発表に臨めるよう，形態を変えながら3回以上練習できるようにする。</p> <p>☆原稿を見ずに，はっきりゆっくり意見主張をするよう意識させる。</p>	<p>◎題に対する自分なりの意見とその理由を，文章の構成に気をつけてまとめ，聞き手とアイコンタクトを取りながら，適切な声の大きさとスピードで発表することができる。</p>
<p>まとめ 反省と感想を書く。 先生の講評を聞く。</p>	<p>8分</p> <p>○次の発表の機会につながるよう，しっかり自己反省をさせる。</p>	

## 2 授業を終えて

本時はWriting Plusで，書いて学習することが目的の単元であるが，書いた原稿をもとにしてディスカッションをする発展的な学習とした。生徒はこれまで，2年時のShow and Tellや，Multi Plus3「わたしの町」，3年時のMulti Plus1「わたしの日本文化紹介」などで，発表の機会をもってきた。本時は，これまでの発表活動を発展させ，意見交流ができるよう展開を工夫した。直前のUnit5で学習した“I agree with~.” “I disagree with~.”を用いて，友達の見解に賛成，もしくは反対の意思表示をしてから，自分の意見を主張する形態をとった。

英語科は常にTTを行うことができ，英語を苦手とする生徒に十分な個別指導を行うことができている。英語で意見主張するには難しいテーマもあったが，発表原稿を作成する段階でTTを効果的に活用し，全員の生徒が発表原稿を仕上げることができた。また，発表前に十分な練習時間を設け，自信をもって発表に取り組めるよう配慮した。

## 3 授業研究会から

- ・生徒は堂々と発表することができていた。
- ・“I agree with~.” “I disagree with~.”を用いて意思表示をさせたことで，聞き手は発表の内容を理解しやすかった。また，前の生徒の発表を正確に聞き取らなければ意思表示ができないので，皆真剣に意見主張を聞いていた。
- ・TTの役割分担がしっかりできていた。
- ・高校の先生から，「高校では発表の機会が多い。また，意思表示がしっかりできなくてはならない。この時間は良い勉強になる。」と助言していただいたことで，生徒のモチベーションがあがった。



## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ・生徒は、本時に至るまでのwriting活動や発表練習に熱心に取り組んだ。
- ・教科書の「優先席に座ってもよい？」という題の他に、生徒の関心が高い「携帯電話」や、意見を出しやすい「制服の必要性」、「英語学習の必要性」をテーマに取り入れたことで、生徒のモチベーションアップにつながった。
- ・意志表示の活動を取り入れたことで、“agree” “disagree” の用法の定着をはかることができた。さらに、前の発表者の意見を正確に聞き取れなければ、賛成や反対の意思表示ができないため、積極的に聞き取ろうとする態度の育成にもつながり、効果的であったと考える。

### (2)

- ・発表中、原稿から1度も目を離せなかった生徒がいた。聞き手とアイコンタクトをとりながら、コミュニケーションさせる練習を普段から取り入れたい。

## 実践例10 第2学年音楽

### ① めざす生徒像

音楽の豊かさや美しさを追求し、主体的に表現できる生徒

### ② 具体的な授業展開の工夫

表現や鑑賞の活動において、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを聴き取り、感じ取ったことを言葉に表すなどの活動を位置付け、さらに、どのように表すかについて思いや意図を伝えあえるような話し合い活動の場を設定することで考えを深めやすい環境をつくる。

平成24年1月27日（金）第6校時  
2年2組 指導者 安藤千雨

### 授業の視点

長唄にふさわしい声の音色や声の出し方、間、旋律の特徴などを個人で聴き取り、それをもとに、それらが生み出す特質や雰囲気についてグループで話し合わせたことは、本時のねらいに有効であったか。

## 1 本時の学習

### (1) 題材名 日本の音楽に親しもう

教材名 歌舞伎「勸進帳」／長唄「勸進帳」 [共通事項] ア・イ リズム・音色・旋律

### (2) ねらい

長唄にふさわしい声の音色と発声、間、長唄の旋律や節回し、産字などを知覚しそれらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。

### (3) 展開

	学習活動	時間 (分)	学習活動への指導・支援の留意点	評価項目【観点】(方法) ○おおむね満足 ☆十分満足
1.	「旅の衣は～しおるらん」までを聴き、長唄	10	・生徒の気づいたことを音色や旋律、リズムなど音楽を	

導入	<p>の声の音色や声の出し方、間、旋律の特徴(節回し、産字)などに気付く。</p> <p>2. 本時のねらいを確認する。</p>		<p>形づくっている要素に関連させていく。その中で、長唄に使われる節回しや産字などの用語の確認もする。</p>	
	<p>長唄にふさわしい声の音色と発声、間、長唄の旋律や節回し、産字などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。</p>			
展開	<p>3. 「旅の衣は～しおるらん」の旋律の特徴を全体で捉える。</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>音色や旋律、リズムなど音楽を形づくっている要素に分けて、特徴を捉えられるようにする。特に、抑揚や歌い尻の特徴をしっかりと捉えさせる。</li> <li>「時しどころは～立ち出でて」「これやこの～逢坂の山かくす」の変化ではなくそれぞれの特質と雰囲気について考えるよう指導する。</li> <li>長唄を日本の伝統芸能の一つとして考え、その良さを伝えられるようなまとめになるよう指示する。</li> </ul>	<p><b>【鑑賞の能力】</b></p> <p>○長唄にふさわしい声の音色と発声、間、長唄の旋律や節回し、産字などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受して聴いている。</p> <p>☆より明確に言葉で表し、主体的に(ワークシート・観察)</p>
	<p>4. 「時しどころは～立ち出でて」の部分の特徴を個人で捉える。</p>	10		
	<p>5. 「これやこの～逢坂の山かくす」の部分の特徴を個人で捉える。</p>	15		
	<p>6. 個人でまとめた特徴をもとに、それらが生み出す特質や雰囲気をグループで話し合い、まとめる。</p>			
	<p>7. 話し合った内容を何班か発表する。</p>			
まとめ	<p>8. 次回の予告をする。</p>	5	<p>次回は、歌舞伎「勸進帳」と関連させて鑑賞することを予告する。</p>	

## 2 授業を終えて

本題材は、日本の伝統芸能に親しむために、歌舞伎「勸進帳」を取り上げている。本時は、歌舞伎の伴奏部分を担う長唄「勸進帳」に着目させ、長唄の独特な発声や音楽表現を聴き取り知覚することで、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取らせることをねらいとしている。そこで、長唄の独特な発声や音楽表現を聴き取り知覚する部分を個人で聴き取り、その後それら



の働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取らせる部分でグループ活動を取り入れた。生徒は2学期にオペラについて学習しており、オペラと長唄の発声や音楽表現を比較して意欲的に学習に取り組んでいた。



### 3 授業研究会から

- ・個人で感じたこととともに、グループで話し合いをさせたことは、長唄の特質を感じ取る上で、はじめに感じた内容を更に充実させるために効果があった。
- ・生徒が、他の生徒の意見を聞いて、朱書きで書き足しさせたことで、生徒の意見が深まった。
- ・本時のねらいをより具体的な生徒の姿として、示すと指導過程での評価がしやすくなり、また、指導の手立ても立てやすくなると思う。
- ・始めから音楽を形づくっている要素ごとに分類し生徒に鑑賞文を書かせていたが、後から整理していく方法もあると思う。

### 4 成果と課題

オペラと長唄の発声や音楽表現を比較し、長唄の特徴を知覚していた。また、グループ活動を取り入れたことで、他の生徒の言語表現の仕方や着目した部分に関心をもち自分の意見を深めている姿がみられた。長唄の特徴を知覚させるための教員からの発問や説明が多くなってしまったが、音楽を形づくっている要素ごとに音楽表現を聴き取る活動を継続して授業に取り入れてきたことで、生徒はそれぞれ自分の力で長唄の特徴を捉えていた。今後はより多くの生徒の気づきを取り上げながら授業を展開していきたい。



### 実践例 1 1 第2学年保健体育

#### ① 目指す生徒像

一人一人が意欲的に取り組み、話し合い活動やVTRの視聴を元に自ら課題を見つけ、その課題解決のための練習方法を選択することができる生徒

#### ② 具体的な授業展開の工夫

自己の課題解決のためのスモールステップを自らが選択し練習できるよう話し合い活動を行わせたり、自己の演技を自分で確認できるようタイムシフト再生を使用したりする。



平成23年11月8日(火)第5校時  
 指導学級 2年1組 於 体育館  
 指導者 T1:石井 優 T2:羽田 勤

授業の視点

練習の場面で、視覚教材を利用したり友達同士で助言し合うなどのフィードバック情報を活用することは自らの課題に気づかせ上達をはかる上で有効であったか

1 単元名 「器械運動」 (跳び箱運動)

2 本時の学習

(1) ねらい

自己の課題を持って台上前転の練習をし、技の完成度を高める

(2) 準備

跳び箱、踏切板、マット、ビデオ、テレビ、ビデオデッキ、学習カード、ワンダフルスポーツ(副読本)

(3) 展開 (3/7時間)

	学 習 活 動	学 習 活 動 へ の 支 援 (T1, T2)	評 価 項 目 ◎十分満足 ○おおむね満足
はじめ 1 0 分	1. 用具の準備をする。 2. 準備運動をする。 3. 挨拶・めあての確認をする。 4. 補助運動をする。 ・開脚跳び	・きちんと準備運動をさせる。 ・場の安全を確認する。 ・分担にそって協力して準備させる ・本時の流れを理解させるために前時に続いて自己課題を解決するための練習を行っていくことを理解させる。	
なか 3 5 分	ねらい1 自己の課題を持って台上前転の練習をし、技の完成度を高められるようにする 5. 自己の課題に応じた練習の場の工夫等により、課題解決のための練習を行う。	・友達の声かけやよい補助などにより技の高まりがみられた時には積極的に賞賛する。 ・技を高めるためにはどんな点に注意するのか、わかりやすい言葉でアドバイスをする。 ・お互いに励まし合える様な雰囲気作りに努めさせる。 ・教師の示範やVTRなどにより技のイメージをとらえさせる。 ・ビデオを利用できる場を設定しておき、生徒がフィードバック情報として利用できるようにする。	※技能 ◎技のポイントをフィードバック情報によりおさえ、確実に技ができるようになっていく ○技のポイントをフィードバック情報によりおさえ、よりよく技ができるようになっていく ※思考・判断 ◎自己にあった技練習方法を選択している ○自己にあった技練習方法を選択しようとしている
まとめ 5 分	6. 本時の反省と次時の課題の確認をする。 7. あいさつ 8. 用具、器具の後片付けをする。	・協力し合う事の大切さを再度学ばせる。 ・次時への課題を明確にしていけるように、工夫した点とその成果を発表させる。 ・本時の活動を振り返り、良かった点や頑張った生徒を紹介し、次時への意欲づけを行う。	

## 2 授業を終えて

本時は遅れ再生ビデオを用いて、生徒自らが自己にあったスモールステップの課題の選択をする事を視点においている。生徒に対しては、台上前転において自己の課題を見つけ練習し、技の完成度を高めるといふねらいで行った。普段、友達の演技を見て課題を見つけ上げてあげることができるが、自分がどのように演技しているのか、どこまで完成に近づいているのかはなかなか感じる事ができない。本時のように遅れ再生ビデオで自らの演技をみて課題を見つけたり完成度を見つけることでできる喜びを味わえると感じこの授業を設定した。

授業を実施した学級の生徒たちは、男子も女子も意欲的で難しい技にも挑戦しようとする気持ちがあるクラスであり、殆どの生徒が本時で台上前転ができるようになった。しかし、補助運動での開脚跳びができない生徒がおり今後も引き続き支援が必要である。

## 3 授業研究会から

- ・実態把握をしっかり行い実態にあった技の設定をする。
- ・男女共修であるため、男子の下位群の生徒が女子生徒と同じ練習場所であると練習しづらいと思う。男女それぞれにステップの場所を設定した方が良い。
- ・技の完成が早かった生徒への対応

## 4 成果と課題

本時の授業を終えての課題としては、まず生徒の実態把握が良くできなかった事が課題としてあげられる。開脚跳びができない生徒もいるため、技の設定を統一して台上前転としたが授業の中盤で殆どの生徒が台上前転をマスターしていた。本時は台上前転の技の完成であるため次のステップである頭はね跳びや前方倒立回転跳びには入らなかった。そのため、台上前転が既にできていて「よりきれいに」という自己テーマを持って行った生徒は物足りなく感じていた。また、できない生徒が徐々に少なくなっていったため、できる生徒ができない生徒に対してアドバイスをするという事も授業中盤ではなくなっていた。

器械運動は指導案で記したように、「できる」「できない」がはっきりしているため難しい単元である。そのため段階を追ってスモールステップの設置により技を完成させていく方法をとったが、今回本校が男女共修という点で難しさを感じた。徐々に難易度があがっていく設定であるため、うまくできない男子が自らの課題解決のための練習方法を素直に選択できずにいた。女子はスモールステップの中間部分に多く集まっていたため選択しづらい環境であった。今後はステップではなく練習の場をシャッフルし、難易度を決めないで提示する方法や跳び箱の数が必要であるが男女それぞれにスモールステップを作るなど考えていきたい。

成果としては遅れ再生ビデオによるフィードバック情報の活用である。技の上達や完成を図る上で自分の動きが自分で確認できることはとても有効であった。また課題を見つける為に使う意外に自分の上達を確認する意味でも活用できる。そして、映像を使った授業に興味を持ち、苦手意識が強い器械運動にとって、運動量の確保にも繋がる。しかし、興味を持ち行える反面、不真面目に跳んだりおもしろおかしく跳んでケガに繋がる可能性もあるのでしっかりとした使い方を説明し注意を促す必要があると感じた。今回の授業により、生徒の実態をより性格に把握しなければならないことや、男女共修の難しさを経験することができた。今回の経験を元に授業の組み立てや授業作りを行っていきたい。

## 実践例 1 2 第 1 学年技術・家庭

### ① めざす生徒像

生活に必要な基礎・基本的な知識および技術を身に付け、自立に向け、進んで生活を工夫し、想像する能力と実践的な態度を身に付けた生徒

### ② 具体的な授業展開の工夫

言語活動を取り入れる際に 4 人班を基本とする。電源プラグの交換実習をした際のコードの構造を想起させながら、自分の考えや意見を分かりやすくまとめさせる。個人の考えや意見をもとに班で話し合い理由をまとめさせる。一人一人が積極的に意見交換ができるように十分な時間をとる。個人でまとめさせる時間と班での話し合い、全体の場での発表といった一連の授業展開を設定する。

平成 23 年 11 月 10 日 (木) 5 校時  
指導者 瀧澤裕志 2 年 2 組 於 技術室

#### 授業の視点

正常なコードを見分けるための話し合い活動を取り入れたことは、電気による事故を知り、機器の安全な使い方を考えさせるのに有効であったか。

1 題材・単元 電気を安全に使う方法を調べよう

2 本時の学習

(1) ねらい

電気による事故の原因を知り、防止する方法や安全な使い方を考えることができる。

(2) 準備 ワークシート、回路計、テーブルタップ

延長コード (正常なコード、断線しているコード、短絡するコード)

(3) 展開

学習活動	時間	教師の支援および指導上の留意点	評価基準
1. 回路計の準備、操作方法の確認	25	<ul style="list-style-type: none"> <li>○回路計を準備する。</li> <li>○回路計の使い方と用途について確認する。</li> </ul>	
<p>3本のコードのうち、どのコードが正常でしょうか。回路計を使って見つけることができます。なぜそのコードが正常だと言えるのか、理由を考えてみよう。</p>			
2. 回路計を利用し導通試験をする。		<ul style="list-style-type: none"> <li>○各班にワークシートと3本のコード (正常なコード、断線しているコード、短絡するコード) を配る。</li> <li>○回路計で導通試験を行い、ワークシートに電気が流れる所は○、流れない所は×を記入し、3本のコードの中から正常なコードをみつけさせる。</li> <li>○なぜそのコードが正常だと思うのか、自分の考えをワークシートに書かせる。理由が考えられない生徒には、電源プラグの交換実習を想起させ、コードの構造を思い出させながら理由を考えさせる。</li> <li>○個人の意見をもとに班で話し合い理由をまとめる。各班に</li> </ul>	
3. 自分の考えをまとめる。			



4. 班で理由をまとめる。		のコードが正常なのか、理由もあわせて答えさせ、意見交流の場になるようにする。	
5. 電気による事故の例とその危険性を知る。	10	<p>○個人で考えさせた際には、短絡するコードが正常であると考える生徒が多いと予想されるので、実際にそのコードをコンセントにさし、電気の事故による危険性を知らせる。短絡するコードを選んでしまった知識不足が巻き起こす危険もあることを感じさせたい。</p> <p>○ショート以外（感電、漏電、停電、発火など）の電気による事故を経験したこと、知っていることがあるか発問し、挙手させる。</p> <p>○電気による事故の例を示し、それらが生じる原因を説明する。</p>	
6. 電気機器の安全な使い方をまとめる。	10	<p>○延長コードやテーブルタップを観察し、記載されている記号や数値の意味を理解させる。</p> <p>○家庭生活を振り返り、電気が安全に正しく使用できているかどうかを考え、具体的な注意点を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確実なアース ・機器の正しい使い方</li> <li>・湿気やほこりの防止 ・破損したまま使用し続けない</li> <li>・電源プラグを抜く習慣 ・定格以内の使用</li> <li>・コードを束ねない ・たこ足配線に気をつける</li> </ul>	○家庭生活中で留意すべき事項を考えまとめることができたか。

ワークシート



調べる所	印無	赤印	茶印
A-あ	○	○	○
A-い	×	○	×
B-あ	×	○	×
B-い	○	○	×
A-B	×	○	×
あ-い	×	○	×



2 授業を終えて

本時は、家庭生活を振り返り、電気が安全に正しく使用できているかどうかを見直し、具体的な注意点を考えさせることをねらいとする。このねらいを達成するために、グループでの話し合い活動を導入段階に取り入れた。

電気の事故による危険性を知らせるために、グループで回路計を使い正常なコードを見分けさせた。まず、個人でどのコードが正常なのか考えさせたときに、短絡するコードを選んでしまった生徒が多かった。深く考えずに全ての部分で電気が流れるものを正常であると判断していた。しかし、グループでの話し合い活動をする事で、ほとんどのグループが正常なコードを選ぶことができ、理由もしっかり考えられていた。

### 3 授業研究会から

- ・生徒が深く考えたり発表したりしたくなるような発問が考えられていて効果的だったと感じた。
- ・生徒との対話の中で授業が進められていて、その中でも押さえておきたいポイントに話が展開されていた。
- ・最後のグループ活動では、前の活動の段階で話題として課題を意識させて取り組んでいて、電力を安全に使う方法を深く考え議論していた。

### 4 成果と課題

与えられた課題に対して、積極的に行うことが出来た。グループでの話し合い活動は活発に進められていて、ほとんどのグループが正しい答えにたどり着き、理解できていたようである。もし話し合いを行わず自分が選んだコードを使っていたら、自分の知識不足が巻き起こす危険もあることを感じさせることができたと考える。しかし、個人で考える際には、理由を自分の言葉で書けない生徒やグループ活動に頼りきりになろうと理由を考えようとしめない生徒もいる。自分の言葉でどのように表現していいのかわかっていて、文章がまとまらない生徒もまだ多くいる。今回は、導入段階として話し合い活動を取り入れたが、主発問での話し合い活動も取り入れていきたい。

## VI 研修のまとめと今後の課題

### 1 研修のまとめ

昨年度まで、「自己の生き方を考え、主体的に学ぶ生徒の育成」という研修主題に沿って7年間の継続研修を進めてきた。今年度は、新学習指導要領で求められている「言語活動の充実」に視点をおき、「基礎・基本を確実に身に付け、意欲的に学習する生徒の育成」を研修主題として1年間取り組んできた。その結果、以下のような成果を得ることができた。

- ・言語活動を取り入れ充実した授業づくりに努めようとするなど、授業改善に向けて職員の意識を向上させることができた。
- ・一人一授業は、普段見ることのできない他の先生方の授業を多く見る機会となり、先生方の授業を観る目を養うことができた。また、自分の授業を振り返り、反省・改善する上で、とても良い機会であった。
- ・一人一人の教員が、校内研修の実践内容をより充実させるために、各教科の「めざす生徒像」と、それに迫るための「具体的な授業展開の工夫」を明確にもって取り組むと共に、専門教科ではない先生方も含め、いろいろな角度から意見交換が行えたことは大変有意義であった。
- ・外部講師（利根教育事務所指導主事）を招いての講義は、授業中における言語活動の大切さについて全職員で再確認することができ、とても有意義であった。
- ・グループでの話し合いは、人数が多すぎると話し合いに参加しない生徒が出てきてしまい、グループの人数は3、4人が適切であることが共通理解できた。
- ・昨年度の課題であった授業研究会の時間を短時間ではあるが確保でき、さらには話し合いのポイントを校内研修の主題に沿って話し合うことによって、中味の濃い授業研究会となった。

### 2 今後の課題

- ・次年度、片品村が3カ年の人権教育総合推進地区事業の指定を受けるので、今年度の実践結果を踏まえ、人権教育をどのように関連付けて実践していくか。
- ・授業研究会の持ち方を工夫し、より深まりのある意見交換が行なえるようにする。
- ・効果的な言語活動の工夫・改善にさらに努める。
- ・授業研究会で話し合われたことをまとめ、参観できなかった先生方にも参考となるようにする。
- ・表現活動を実施すればよいのではなく、本時のねらいを達成するためのひとつの手段・方法であるので、表現活動を取り入れる必要性を考えた授業づくりをする。
- ・言語活動を話し合いだけに限定せず、幅広く言語活動をとらえ、より充実した研修ができるようにする。
- ・部会の活動の様子が伝わってこないなので、部長を中心に部会別の活動を計画的にすすめ、活動した内容を報告できるようにする。
- ・自分の空き時間が重ならず参観できる回数が少なかった。自習計画を立てる等、参観できるように工夫する必要がある。また、1人1授業が実施される学年の職員はできる限り参観できるようにする。

## あ と が き

本年度の校内研修は、24年度からの新学習指導要領による新教育課程完全実施に向けて、主題を「基礎・基本を確実に身に付け、意欲的に学習する生徒の育成」また、副主題を「言語活動を中心とした表現活動の工夫を通して」とし、授業改善を中心にして取り組んできた。

年度初めの校内研修では、言語活動というものに対する確認や共通理解から研修のスタートを切った。若い職員の中には、自分の担当教科の中で言語活動がどのように行われるのかイメージできずに困惑している職員も見受けられた。しかし、少しずつ言語活動に対する理解が進む中で、個々の教師が各教科特性を生かしながら様々な言語活動の工夫を取り入れた授業を行うことができたと考える。本校では以前から一人一授業の研究授業は実施されており、参観の方法や授業研究会の持ち方に工夫を加えながらも職員に定着している。この研究授業の機会をもとに個々に考える「言語活動を中心とした表現活動の工夫」を発表するべく全職員によって授業が行われた。

また、今年度は9月5日に利根教育事務所の中島潔指導主事を講師に招き、校内研修に係る講義を実施した。教科の特性をふまえた言語活動と授業づくりの基本的な考え方や新学習指導要領や各教科における言語活動の位置づけと学習評価の改善及び言語活動の在り方が確認できた。具体的で分かりやすい内容であり、大いに参考になった。

現代社会において幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断や変化に対応する能力が求められている。生徒の生きる力を育むことを目指し、基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに主体的に学習に取り組む態度を養うためには言語活動の充実を図ることは不可欠である。本校では、今後も授業改善を続けながら望ましい生徒の育成のための研修を推進していきたいと考える。

本校の研修に対する多くの方々のご支援に感謝するとともに、引き続き、ご指導ご助言をいただけるようお願いしたい。

(文責 小室 昌顕)